

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|------------------------|----------------------|---|---|
| バレエ&ダンス | | | |
| ベルリン州立バレエ2014『くるみ割り人形』 | 1, 2, 3, 9, | ヨーロッパ屈指のバレエ団が、クリスマスを彩る永遠の名作『くるみ割り人形』の“元祖”に立ち返る。初演時の振付・台本・美術・衣装に基づくこだわりの復刻版。 | <p>[出演]ヤーナ・サレンコ (クララ&金平糖の精) マリアン・ヴァルター (くるみ割り人形&コクリューシ王子) ミハエル・パンツハフ (ドロッセルマイヤー) アルシャク・ガルミヤン (ネズミの王様) 井関エレナ (少女のクララ) リヌス・シュミット (フリッツ) マルティン・シマンスキ (シルバーハウス) ゼブネム・ギルゼカー (シルバーハウス夫人) カイ・ケスナー (お祖父さん) ヴェレナ・トルム (お祖母さん) ビルギット・ブルックス (乳母) アレクサンドル・シュバク (王子の人形) ヤーナ・パロワ (お姫様の人形) グラウバー・ルーカス・メンデス・シルヴァ (王子のくるみ割り人形) マルティナ・ベックマン (コクリューシ王子の母でお菓子の国の女王) ヴェロニカ・フロディマ、アナスタシア・クルコワ、イレニア・モンタニョーリ (コクリューシ王子の姉) サラ・メストロヴィッチ、タラス・ピレンコ、ドミニク・ホダル、アレクセイ・オルレンコ、ケヴィン・ブズー (スペインの踊り) フェデリコ・スバリッタ、ソラヤ・ブルーノ、エリノル・ヤゴドニク、ヨルダン・ムリン、ゲオルゲータ・ヴァルヴァリッチ (アラビアの踊り) 菅野菜里奈、ヴラディスラフ・マリノフ (中国の踊り) アレクサンドル・シュバク (ロシアの踊り) ヤーナ・パロワ、マリア・ブンブーリ、リサ・プロイカー、マリア・ジャンボーナ、嵐山葵 (あし笛の踊り) マルティン・シマンスキ (マザー・ジンジャー) ベルリン州立バレエ団, ベルリン州立バレエ学校の生徒たち</p> <p>[振付&台本]フシリー・メドヴェージェフ&ユーリ・ブルラーカ[音楽]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー:バレエ『くるみ割り人形』Op.71[オリジナル台本]マリウス・プティパ[オリジナル振付]レフ・イワノフ[原作]エルンスト・テオドール・アマデウス・ホフマンの童話『くるみ割り人形とねずみの王様』[美術]アンドレイ・ヴォイテンコ (初演版に基づく) [衣装]タチアーナ・ノギノワ (初演版に基づく) [指揮]ロベルト・ライマー[演奏]ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団&同児童合唱団[収録]2014年12月15日&26日ベルリン・ドイツ・オペラ[映像監督]アンディ・ソマー</p> <p>■全2幕&プロローグ: 約1時間55分</p> |
| アクラム・カーン『チョット・デッシュ』 | 2,31 | バングラデシュ系英国人振付家&パフォーマー、アクラム・カーンが、自身のルーツと若き日の両親との確執を、プロジェクトマッピングを駆使した幻想的な舞台で描いた傑作。 | <p>[出演]デニス・アラマノス『デッシュ』振付&演出]アクラム・カーン[『チョット・デッシュ』演出&翻案]スー・バックマスター[音楽]ジョスリン・ブーク[照明]ガイ・ホア[台本]カルテカ・ナイール、スー・バックマスター、アクラム・カーン[美術&映像]ティム・イップ[衣装]中野さきみえ[音響]アレックス・スタイン[収録]2017年12月9日メゾン・ド・ラ・ダンス (リヨン) [映像監督]リェック・リオロン</p> <p>■字幕/約57分</p> |
| ウィーン国立バレエ2016『ドン・キホーテ』 | 3, 4, 5, 6, 7, 8, 16 | スペインの情緒とクラシック・バレエの幻想世界が巧みに織り交ぜられた、愉快的な傑作。難易度の高いヌレエフ版を、マヌエル・ルグリ率いるウィーンの名門が再演。 | <p>[音楽]ルートヴィヒ・アロイジウス・ミンクス[台本]マリウス・プティパ[原作]ミゲル・デ・セルバンテス・サアベドラの小説『ドン・キホーテ』[振付&演出]ルドルフ・ヌレエフ[芸術監督]マヌエル・ルグリ[装置&衣装]ニコラス・ジョージアディス[照明]マルク・アンロシュト[管弦楽編曲]ジョン・ランチベリ- [指揮]ケヴィン・ローズ[演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団</p> <p>[出演]マリア・ヤコヴレワ (キトリ&ドゥルシネア姫) デニス・チェリエヴィチコ (バジル) カミル・パヴェルカ (ドン・キホーテ) クリストフ・ヴェンツェル (サンチョ・パンサ) ガボール・オベレガー (ロレンツォ) アンドレイ・カイダノフスキー (ガマーシュ) ケテヴァン・パバヴァ (街の踊り子) ロマン・ラツィック (エスパーダ) オルガ・エシナ (森の女王) 橋本清香 (アモール) ニーナ・トノーリ, アリス・フィレンツェ (キトリの友人) ミハイル・ソスノフスキー、レベッカ・ホーナー、エリカ・コヴァー・チョヴァー (ロマたち) イーゴリ・ミロス、ベアータ・ヴィードナー (年老いたロマ) ガラ・ジョヴァノヴィッチ、ラウラ・ニストル、オクサナ・キヤネンコ (3人の森の精霊 (ドリアド) たち) ナターシャ・マイヤー (花嫁の付き添い) ウィーン国立バレエ団、ウィーン国立バレエ学校の生徒たち</p> <p>[収録]2016年5月28日&31日ウィーン国立歌劇場[映像監督]ミハエル・ペイヤー</p> <p>■プロローグ&全3幕: 約2時間4分</p> |
| アラン・プラテル『マタイによる憐れみ』 | 6, 7, 8, 10, 11 | 現代舞踊の巨匠アラン・プラテル率いるダンス・カンパニー“les Ballets C de la B”がコンゴ民主共和国の首都キンシャサで行った『マタイによる憐れみ』世界ツアー最終公演のドキュメント。 | <p>[構成・演出]アラン・プラテル[音楽]ファブリツィオ・カソル (ヨハン・セバスティアン・バッハ『マタイ受難曲』に基づく)</p> <p>[出演]les Ballets C de la B, セルジュ・カウジ (カウンターテナー) メリッサ・ギブンス (ソプラノ) マリベス・ディグル (メゾ・ソプラノ)</p> <p>[指揮]SAX]ファブリツィオ・カソル[演奏]アカ・ムーン[収録]2009年7月ラ・ゴンベ・ホール (キンシャサ) [監督]イェルク・イェッセル、プリギッテ・クラーメル</p> <p>■字幕/約1時間32分</p> |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|------------------------------|------------------------------------|---|---|
| アレクサンダー・エクマンの『真夏の夜の夢』 | 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 23 | スキャンジナビアの「夏至祭」で湧き出す生の喜び、そして夜の夢に誘われて…。人気振付家エクマンがスウェーデン王立バレエと創り上げた異空間！ | [出演]ドラゴス・ミルセア（夢見る人） ジェニー・ニルソン（ホステス） サラ＝ジェーン・プロドベック（愛人） レア・ヴェッド、ロス・マーティンソン、アマンダ・エケソン、デヴォン・カルボン（恋人たち） タリア・イヴァノヴァ、デジスラヴァ・ステーヴァ（夢見る女たち） ジョニー・マクラン（Mr.カノン） ロス・マーティンソン（バブラー） ダニエル・ナルグレン＝イェンセン（シェフ・オン・ボウト） スウェーデン王立バレエ団 [振付&装置]アレクサンダー・エクマン[音楽]ミカエル・カールソン[ヴォーカル]アンナ・フォン・ハウスウォルフ[サウンドデザイン]アレクサンダー・エクマン、ミカエル・カールソン[衣裳]プレヒ・ファン・バーレン[照明]ライナス・フェルボム[演奏]ダールクヴィスト弦楽四重奏団、ニクラス・ブロンマーレ（パーカッション） ヘンリック・モーウェ（ピアノ） [収録] 2016年9月5日 & 10日スウェーデン王立歌劇場（ストックホルム） [映像監督] トミー・バスカル ■約1時間39分 |
| アメリカン・バレエ・シアター『ジゼル』 | 13, 14, 17, 18, 19 | イタリアの至宝カルラ・フラッチ全盛期の映像。無邪気なジゼルと錯乱のジゼル、精霊のジゼルを演じ分ける豊かな表情が見どころ。アルブレヒトはデンマークが生んだ最大のスター、エリック・ブルーネ。 | [出演]カルラ・フラッチ（ジゼル） エリック・ブルーネ（アルブレヒト） ブルース・マークス（ヒラリオン） トニ・ランダー（ミルタ） エリアノール・ダントウオノ&テッド・キヴィット（ベザント・パ・ド・ドゥ） アメリカン・バレエ・シアター[振付&演出]デイヴィッド・ブレア[オリジナル振付]ジェーン・コタリ&ジュール・ペロー[音楽]アドルフ・アダン[装置]ジョルジュ・ワケヴィッチ、B.バレストー[衣裳]P.ホール、J.レヌッチ[指揮]ジョン・ランチベリー[演奏]ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団[映像収録]1968年10月～11月プロンストン・スタジオ（マドリッド） [音声収録]1968年9月U F Aスタジオ（ベルリン） [映像監督]フーゴー・ニーベリング ■全2幕：約1時間32分 |
| エルヴェ・クビ『蛮族たちの夜、あるいは世界の始まりの朝』 | 17, 18, 19, 20, 21, 22, | アルジェリア系フランス人の振付家が、自身のルーツを探求。北アフリカ出身の筋骨たくましい男性ダンサーたちが、いにしえの地中海世界を神秘的かつ厳かに舞う。 | [出演]エルヴェ・クビ・カンパニー[振付]エルヴェ・クビ[音楽]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト、ガブリエル・フォーレ、リチャルト・ワーグナー、マクシム・ボドソフ、アルジェリアの伝統音楽[衣裳&宝飾デザイン]ギョーム・ガブリエル[照明]リオネル・ブソニー[収録]2017年5月ニース国立劇場（フランス） [映像監督]パトリック・ラウゼ ■約1時間6分 |
| ポリショイ・バレエ2014『マルコ・スパーダ』 | 20, 21, 22, 24, 25, 26 | さすがポリショイ！物語を彩る素晴らしいダンサーの技量に目が釘付け。名匠ピエール・ラコットにより鮮やかに現代に蘇ったオーベールの古典バレエ。 | [出演]デイヴィッド・ホールバーグ（マルコ・スパーダ） エフゲーニヤ・オプラスツォワ（アンジェラ） オルガ・スミルノワ（サンピエトリ） セミーン・チュージン（フェデリッチ公爵） イーゴリ・ツヴィルコ（ベピネリ伯爵） アレクセイ・ロバレーヴィチ（修道士ポロメオ） アンドレイ・シトニコフ（オサリオ侯爵） アナスタシア・スタシケーヴィチ（花嫁） ヴァチスラフ・ロバーティン（花婿） ユリア・グレンシュチコワ、オルガ・マルチエンコワ、アンナ・オクネワ、アンナ・チホミロワ（サンピエトリの友人） イワン・アレクセーエフ、アルテミー・ベリャコフ（マルコ・スパーダの友人） ヤン・ゴドフスキー、アナスタシア・グバノワ、タリア・ホフロワ、アルトゥール・ムクルトチャン、スヴェトラナ・バヴロワ、アレクサンドル・スモリヤニノフ（道化師） アリョーシャ・グラドワ、エリザヴェータ・クルテリョワ、ユリア・ルンキナ、スヴェトラナ・バヴロワ、アンナ・レベツカヤ、アンナ・ヴォロンコワ（使用人） アンナ・アントロポワ、アンナ・レオノワ、ヴィクトリア・リトヴィノワ、マリーヤ・ザルコワ、カリム・アブドゥーリン、エゴール・フロムシン、カリム・エフィーモフ、ドミトリー・エフレモフ（盗賊） ポリショイ・バレエ団[復元振付・装置・衣裳]ピエール・ラコット[音楽]ダニエル＝フランソワ＝エスプリ・オーベール[オリジナル台本]ウジェーヌ・スクリーブ[オリジナル振付]ジョゼフ・マシリエ[照明]ダミール・イスマイロフ[指揮]アレクセイ・ポゴラート[演奏]ポリショイ劇場管弦楽団[収録]2014年3月27日 & 30日ポリショイ劇場（モスクワ） [映像監督]ヴァンサン・パティオン ■全3幕：約2時間7分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|----------------------------|---|---|--|
| シュレプファー & バレエ・アム・ライン『白鳥の湖』 | 24, 25, 26, 27, 28, 29,30, 31 | 次期ウィーン国立バレエ芸術監督マーティン・シュレプファー振付の衝撃の舞台！オデットの継母と祖父の対決！果たしてオデットとジークフリートの運命は如何に？ | [出演]マルコス・メンハ（ジークフリート） マルルシア・ド・アマラル（オデット） ホ・ヨンスン（オデットの継母） ソニー・ロクシン（ロットバルト） ヴァージニア・セガーラ・ヴィダル（ジークフリートの母） チドジー・ンゼレム（式部長） アレクサンドレ・シモエス（ベンノ） カミール・アンドリオ（オディール） ポリス・ランドツィオ（オデットの祖父） 加藤優子、キム・ソヨン、中ノ目知章、エリック・ホワイト（継母の側近） バレエ・アム・ライン [振付]マーティン・シュレプファー [音楽]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：バレエ『白鳥の湖』Op.20 [オリジナル台本]ウラディーミル・ベギチェフ&ワシリー・ゲルツァー [装置 & 衣裳]フロリアン・エッティ [照明]シュテファン・ホリガー [ドラマトルギー]アンヌ・ド・バコ [指揮]アクセル・コーバー [演奏]デュッセルドルフ交響楽団 [収録]2018年デュッセルドルフ歌劇場（ドイツ） [映像監督]ペーター・シェンホーファー ■全4幕：2時間20分（番組枠） |
| ポリショイ・バレエ2003『ファラオの娘』 | 27, 28, 29, 31, | タイムスリップした若き英国人探検家と美しい王女の波乱万丈の恋。マリウス・プティパの出世作を、ピエール・ラコットが巨大スケールで再現。 | [出演]スヴェトラナ・ザハロワ（アスピシア） セルゲイ・フィーリン（ウィルソン卿/タール） マリーヤ・アレクサンドロワ（ラムゼ） ゲンナジー・ヤーニン（ジョン・ブル/パシフォンテ） アンドレイ・シトニコフ（ファラオ） アンドレイ・メーニン（ヌビア王） ドミトリー・グダノフ（漁師） インナ・ベトロヴァ（漁師の妻） ウラディーミル・モイセーエフ（ナイル神） 岩田守弘（猿） ポリショイ・バレエ団 [振付・脚色・演出・装置・衣裳]ピエール・ラコット [オリジナル振付]マリウス・プティパ [オリジナル台本] ジュール＝アンリ・ヴェルノワ・ド・サン＝ジョルジュ、マリウス・プティパ [原作]テオドール・ゴージェの小説『ミラの物語』 [照明]アレクサンダー・ルプツォフ [音楽]チェーザレ・プーニ [編曲 & 指揮]アレクサンドル・ソトニコフ [演奏]ポリショイ劇場管弦楽団 [収録]2003年10月27日・29日・31日ポリショイ劇場（モスクワ） [映像監督] デニス・カイオツィ ■字幕／全3幕：約1時間43分 |
| ベルリン州立バレエ2008『カラヴァッジオ』 | 31 | カラヴァッジオは16～17世紀のイタリアが生んだ歴史的な画家。光と影が織りなす写実的な画風は、レンブラントやルーベンスにも影響を与えたとされています。この番組は、カラヴァッジオの人生をバレエ化した2008年ベルリン州立バレエ公演。カラヴァッジオの作風そのままに「光」と「影」が横溢する舞台です。 | [振付]マウロ・ピゴンゼッティ [音楽]クラウディオ・モンテヴェルディ [編曲]ブルーノ・モレッティ [装置 & 照明]カルロ・チェリ [衣裳]クリストファー・ミラー、ロイス・スワンデル [指揮]ポール・コネリー [演奏]シュターツカペレ・ベルリン [出演]ウラジミール・マラーホフ（カラヴァッジオ） ポリーナ・セモイノワ、ベアトリス・クノッパ、ミハイル・カニスキン、ドミトリー・セモイノフ、エリサ・カリッヨ・カブレラ、中村祥子、ミハエル・パンジャフ、レオナルド・ヤコヴィーナ、ベルリン州立バレエ団 [収録]2008年12月ベルリン州立歌劇場 [映像監督]アンドレアス・モレル ■約1時間34分 |
| オペラ | | | |
| TUTTO VERDI #15『ステイッフェーリオ』 | 1, 3, 4, 5, | ヴェルディ自身が『アロルド』に改作し、1968年に総譜が発見されるまで忘れ去られていた問題作を、24歳のアンドレア・パッティストーニがバルマで指揮。 | [出演]ロベルト・アロニカ（ステイッフェーリオ/テノール） ユ・ガンクン（于冠群）（リーナ/ソプラノ） ロベルト・フロンターリ（スタンカー/バリトン） ガブリエーレ・マンジョーネ（ラファエーレ/テノール） ゲオルギー・アンドグラゼ（ヨルグ/バス） コジモ・ヴァッサッロ（フェデーコ/テノール） ロレライ・ソリス（ドロテア/ソプラノ） [演出]ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕のメロドラマ『ステイッフェーリオ』 [台本]フランチェスコ・マリア・ピアヴェ [原作]エミール・スーヴェストル、ユージーン・ブルジョワ [牧師] [演出 & 照明]ギイ・モンタヴォン [装置 & 衣裳]フランチェスコ・カルカニーニ [指揮]アンドレア・パッティストーニ [演奏]バルマ王立歌劇場管弦楽団及び同合唱団 [合唱指揮]マルティノ・ファッジャーニ [収録]2012年4月バルマ王立歌劇場 [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全3幕：約1時間59分 |
| アレーナ・ディ・ヴェローナ2012『アイダ』 | 1, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 16, | アレーナ・ディ・ヴェローナといえば『アイダ』。100年前の第1回音楽祭のプロダクションを再現した、壮大な舞台で味わうヴェルディ・スペクタクル！ | [出演]和慧（ヘー・ホイ）（アイダ/ソプラノ） マルコ・ベルティ（ラダメス/テノール） アンドレア・ウルブリヒ（アムネリス/メゾ・ソプラノ） アンブロージョ・マエストリ（アモナスロ/バリトン） フランチェスコ・エッレロ・ダルターニャ（ランフィス/バス） ロベルト・タリアヴィーニ（エジプト国王/バス） アントネッポ・チェロン（使者/テノール） アントネッラ・トレヴィサン（巫女/メゾ・ソプラノ） ミルナ・カマラ（ダンサー） アレーナ・ディ・ヴェローナ・バレエ団（舞踊監督：マリア・グラツィア・ガルフオリ） [演出]ジュゼッペ・ヴェルディ：4幕のオペラ『アイダ』 [台本]アントーニオ・ギスランツォーニ [原案]オーギュスト・マリエット [演出]ジャンフランコ・デ・ボジオ（1913年「第1回アレーナ・ディ・ヴェローナ」のプロダクションを再現） [振付]スザンナ・エグリ [照明]パオロ・マツォン [指揮]ダニエル・オーレン [演奏]アレーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団及び同合唱団 [合唱指揮]アルマンド・ツッソ [収録]2012年6月アレーナ・ディ・ヴェローナ [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全4幕：約2時間34分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|-------------------------------|--------------------------------|---|--|
| アレーナ・ディ・ヴェローナ2019『イル・トロヴァトーレ』 | 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 23, | アンナ・ネトレブコとユシフ・エイヴァゾフの夫婦共演！開幕直前に死去したフランコ・ゼツフィレツリのヴェローナ定番のプロダクション。2019年7月収録。 | [出演]アンナ・ネトレブコ（レオノーラ/ソプラノ） ユシフ・エイヴァゾフ（マンリーコ/テノール） ルカ・サルシ（ルーナ伯爵/バリトン） ドローラ・ザジック（アズチーナ/メゾ・ソプラノ） リッカルド・ファッシ（フェルランド/バス） エリザベッタ・ツィツォ（イネス/ソプラノ） カルロ・ボージ（ルイス/テノール） グリオ・ジョルジェーレ（老ロマ/バス） アントネッロ・セロン（使者/テノール） アレーナ・ディ・ヴェローナ・バレエ団 [演出]ジュゼッペ・ヴェルディ：4幕のドラママ・リッコ『イル・トロヴァトーレ』[台本]サルヴァドレ・カンマラーノ、レオーネ・エマヌエーレ・バルダレ（補完） [原作]アントニオ・ガルシア＝グティエレスの戯曲『エル・トロバドール』[演出&装置]フランコ・ゼツフィレツリ[衣裳]ライモンダ・ガエターニ[振付]エル・カンポリオ（ルチア・レアルによる復元） [殺陣]レンツォ・ムズメチ・グレコ[指揮]ピエル・ジョルジョ・モランディ[演奏]アレーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]ヴィート・ロンバルディ[収録]2019年7月4日 & 7日アレーナ・ディ・ヴェローナ[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕/全4幕：2時間40分（番組枠） |
| シャイアの『ラ・ボエーム』 | 1, 9 | ミラノ・スカラ座次期音楽監督に決定したイタリアの指揮者リッカルド・シャイアが最高のオペラ指揮者であることがわかる番組。柔軟でしなやかな音楽運びと振幅の大きなダイナミクス、そしてドラマティックなオーケストラ。これぞイタリア・オペラ！といえる最高の『ラ・ボエーム』映像。ラストは誰もが涙することだろう。 | [出演]ガル・ジェイムズ（ミミ/ソプラノ） アキレス・マチャド（ロドルフォ/テノール） マッシモ・カヴァッレツィ（マルチェッロ/バリトン） カルメン・ロメウ（ムゼッタ/メゾ・ソプラノ） ジャンルカ・プラット（コッリーネ/バス） マッティア・オリヴィエーリ（ショナール/バリトン） マッテオ・ペイローネ（ペノワ/バス） アンドレア・ズナルスキ（アルチンドーロ/バス） パブロ・ガルシア・ロベス（パルミニョール/テノール） ボロ・ギナー（関税官/バス） [演出]ジャコモ・プッチーニ：4幕のオペラ『ラ・ボエーム』[台本]ジュゼッペ・ジャコーザ&ルイーダ・イリガ[原作]アンリ・ミュルジェールの小説『ボヘミアンの生活風景』[演出・装置・衣裳・照明]ダヴィデ・リヴェルモレー[指揮]リッカルド・シャイア[演奏]バレンシア州立管弦楽団、バレンシア自治州合唱団、他[合唱指揮]フランセスク・ベラレス、ルイス・ガッリード、他[収録]2012年12月12日 & 15日ソフィア王妃芸術館（バレンシア） [映像監督]ミヒャエル・ペイヤー ■字幕/全4幕：約1時間56分 |
| ゼツフィレツリの映画『カヴァレリア・ルスティカーナ』 | 6, 7, 10, 11, 21 | シチリアの山間部を舞台に、貧しい人々の暮らしと、三角関係のもつれから起きる決闘と殺人…。マスカーニの代表作であると同時に、イタリア・ヴェルジモ・オペラの最高傑作としても名高い『カヴァレリア・ルスティカーナ』を、『ロミオとジュリエット』『永遠のマリア・カラス』などの名匠フランコ・ゼツフィレツリが映画化。 | [出演]エレナ・オブラスツォワ（サントゥツァ/メゾ・ソプラノ） プラシド・ドミンゴ（トゥリッドゥ/テノール） レナート・ブルゾン（アルフィオ/バリトン） フェドラー・バルビエリ（ルチア/メゾ・ソプラノ） アクセル・ガル（ローラ/メゾ・ソプラノ） [演出]ピエトロ・マスカーニ：1幕のメロドラマ『カヴァレリア・ルスティカーナ』[台本]ジョヴァンニ・タルジョーニ＝トツヴェツィ、グイード・メナッシ[原作]ジョヴァンニ・ヴェルガの同名小説とそれに基づく同人による戯曲『カヴァレリア・ルスティカーナ』 [監督]フランコ・ゼツフィレツリ[装置]ジャンニ・クランタ[衣裳]アンナ・アンニ [指揮]ジョルジュ・プレートル[演奏]ミラノ・スカラ座管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]ロマーノ・ガンドルフィ [制作]1982年イタリア・ドイツ映画 ■字幕/全1幕(映画版):約1時間11分 |
| ゼツフィレツリの映画『道化師』 | 14, 27, 28, 31, | 道化師は心で泣きながら観客を笑わせなければならない…。愛するが故の嫉妬が生んだ男と女の愛憎劇が名匠フランコ・ゼツフィレツリの圧倒的な映像美で堪能。 | [出演]プラシド・ドミンゴ（カニオ（劇中劇のバリアッチョ）/テノール） テレサ・ストラータス（ネッダ（劇中劇のコロンビーナ）/ソプラノ） ホアン・ボンズ（トニオ（劇中劇のタデオ）/バリトン） フロリンド・アンドレオリ（ペッペ（劇中劇のアレッキエーノ）/テノール） アルベルト・リナルディ（シルヴィオ/バリトン） [演出]ルッジェーロ・レオンカヴァッロ：プロローグと2幕のドラマ『道化師』[台本]ルッジェーロ・レオンカヴァッロ[原案]新聞の犯罪記事に基づく[監督]フランコ・ゼツフィレツリ[装置]ジャンニ・クランタ[衣裳]アンナ・アンニ[指揮]ジョルジュ・プレートル[演奏]ミラノ・スカラ座管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]ロマーノ・ガンドルフィ[制作]1982年イタリア・ドイツ映画 ■字幕/全1幕（映画版）：約1時間13分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--|----------------------------|--|--|
| バルセロナのフローレス『チェネレントラ』 | 2 | 現代最高の人気テノール、ファン・ディエゴ・フローレスとアメリカの人気メゾ・ソプラノ、ジョイス・デイドナートが2007年リセウ大劇場で共演し大評判を呼んだ公演。 | [出演]ファン・ディエゴ・フローレス（ドン・ラミロ／テノール） ジョイス・デイドナート（アンジェリーナ《チェネレントラ》／メゾ・ソプラノ） ブルーノ・デ・シモーネ（ドン・マニフィコ／バス・バリトン） ダビド・メネンデス（ダンディーニ／バリトン） クリスティーナ・オブレゴン（クロリンダ／ソプラノ） イトクサロ・メントウサカ（ティスベ／メゾ・ソプラノ） シモン・オルフィラ（アードーロ／バス） アンデル・アラボラーザ、ホフレ・カラベン、ハビエル・エストラダ、ブランカ・フェレル、ジェンマ・ガルシア、フリア・M・コシュ、エクトル・マンサナレス、アンヘル・ソテス（ねずみ） [演目]ジョアキーノ・ロッシーニ：2幕のドラマ・ジョコーゾ『チェネレントラ、あるいはまごころの勝利』（アルベルト・ゼッダ監修によるロッシーニ財団のクリティカル・エディション） [台本]ヤコボ・フェレルッティ[原作]シャルル・ペロの童話『サンドリオン（シンデレラ）』、ニコロ・イズアル作曲『サンドリオン』のためのシャルル＝ギョーム・エティエンヌによる台本、ステファノ・パヴェージ作曲『アガティーナ、報いられた美徳』のためのフランチェスコ・フィオリニによる台本 [演出]ホアン・フォント [装置&衣裳]ホアン・ギーエン [照明]アルベルト・ファウラ [振付]セビ・ドルカ [指揮]パトリック・サマーズ [演奏]リセウ大劇場交響楽団及び同合唱団 [合唱指揮]ホセ・ルイス・バツ [収録]2008年1月リセウ大劇場（バルセロナ） [映像監督]シャビ・ポーベ ■字幕／全2幕：約2時間49分 |
| バレンシア州立歌劇場2010『はかなき人生』 | 1, 3, 9 | 亡き巨匠マゼールがスペインの手兵たちを率いた貴重なスペイン・オペラ『はかなき人生』。歌に踊りに、強烈な本場のエネルギーが炸裂する情熱の舞台！ | [出演]クリスティーナ・ガイヤルド＝ドマス（サルー／ソプラノ） ホルヘ・デ・レオン（パコ／テノール） マリア・ルイサ・コルバコ（祖母マリア／メゾ・ソプラノ） フェリペ・ボウ（叔父サルバオール／バス） サンドラ・フェランダス（カルメラ、物売り女1&3／ソプラノ） イサーク・ガラン（マヌエル／バリトン） アントニオ・ロサーノ（遠くの声／テノール） ナターリア・ルナル（物売り女2／メゾ・ソプラノ） エスベランサ・フェルナンデス（フラメンコ歌手） ファン・カルロス・ゴメス・バストル（フラメンコ・ギター） [演目]マヌエル・デ・ファリア：2幕のリリック・ドラマ『はかなき人生』 [台本]カルロス・フェルナンデス・シャウ [演出&装置]ジャンカルロ・デル・モナコ [衣裳]ヘスス・ルイス [照明]ヴォルフガング・フォン・ズーベック [振付]ゴジョ・モンテロ [指揮]ロリン・マゼール [演奏]バレンシア州立管弦楽団、バレンシア自治州合唱団 [合唱指揮]フランチェスコ・ペラーレス [収録]2010年4月17日バレンシア州立歌劇場「ソフィア王妃芸術館」 [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全2幕：約1時間23分 |
| ベルゴレージ・スポンティーニ・フェスティバル2012『仮面をつけた駆け落ち』 | 18, 19, 20, 21, 22, 24, 30 | 作曲家の生地ですら21世紀に生まれた音楽祭にて、なんと212年ぶりに復活蘇演！18世紀の古典的なスタイルのオペラ・ブッフながら、ロッシーニを先取りした傑作。 | [出演]ルース・ロジク（エレナ／ソプラノ） カテリーナ・ディ・トンノ（オリンピア／ソプラノ） アレッサンドラ・マリアネリ（コラリーナ／ソプラノ） クレメンテ・タリオッティ（ナルドッコ／バリトン） フィリッポ・モラーチェ（マルズッコ／バス） アレッサンドロ・スピーナ（ナスタージョ／バス） ディオニージ・ドストゥーニ（ドラルボ／テノール） [演目]ガスパレ・スポンティーニ：2幕のコンメディア・ベル・ムジカ『仮面をつけた駆け落ち』（フェデリコ・アゴ스티ネリ校訂によるクリティカル・エディション） [台本]ジュゼッペ・パロンバ [演出]レオ・ムスカート [装置]ベニト・レオノーリ [衣裳]ジュージ・ジュスティアーノ [照明]アレッサンドロ・ヴェラツィ [指揮]コラード・ロヴァリス [演奏]イ・ヴィルトゥオージ・イタリアーニ [収録]2012年8月29日テアトロ・ベルゴレージ（イエージ、イタリア・マルケ州）「ベルゴレージ・スポンティーニ・フェスティバル2012」 [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全2幕：約2時間31分 |
| ベルゴレージ・フェスティバル『リヴィエッタとトラコッコ』 | 8, 17, 22, 30, | モーツァルト、ロッシーニと並び称されるイタリアのオペラ作曲家ベルゴレージの生誕300年を記念して、2010年から1年がかりで行われた大プロジェクト「トゥット・ベルゴレージ（すべてベルゴレージ）」。 | [出演]モニカ・バチェッリ（リヴィエッタ／メゾ・ソプラノ） カロ・レポーレ（トラコッコ／バス） [演目]ジョヴァンニ・バッティスタ・ベルゴレージ：2部のインテルメッツォ『リヴィエッタとトラコッコ（ずるい田舎女）』（ゴルダナー・ラザレヴィチによるクリティカル・エディション） [台本]トンマーゾ・マリアーニ [演出]イグナシオ・ガルシア [装置]スリマ・メンバ・デル・オルモ [衣裳]パトリチア・トッフォルッティ [照明] イグナシオ・ガルシア、ファブリティオ・ゴッビ [指揮&チェンバロ]オッターヴィオ・ダントーネ [演奏]アカデミア・ビザンティーナ [収録]2010年6月8日&12日、ベルゴレージ劇場（イエージ、イタリア） [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全2部：約52分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|----------------------------------|------------------------------------|---|--|
| ベルゴレージ・フェスティバル『誇り 高き囚人』 | 25, 26, 27, 28, 29 | 幕間劇の『奥様女中』の方が評判となり、本体は忘れられていたベルゴレージ2作目のオペラ・セリア。文楽の手法と取り入れた演出とコロド・ロヴァリスによる颯爽とした古楽の響きが心地よい。 | [出演]アントニオ・ロザーノ（ソストラテ／テノール） マリナ・ロドリゲス・クシ（ロズメーネ／メゾ・ソプラノ） マリナ・デ・リソ（メタルーチェ／メゾ・ソプラノ） ルース・ロジク（エリクレア／ソプラノ） マリーナ・コンバラート（ヴァリダーテ／メゾ・ソプラノ） ジャチンタ・ニコトラ（ミチズダ／ソプラノ） [演目]ジョヴァンニ・パッティスタ・ベルゴレージ：3幕のドラマ・ベル・ムジカ『誇り高き囚人』(クラウディオ・トスカーニ校訂によるクリティカル・エディション) [台本]ジェナラントニオ・フェデリコ[演出&装置]ヘニング・ブロックハウス[衣裳]ジャンカルロ・コーリス[照明]ヘニング・ブロックハウス&ファブリツィオ・ゴッビ[マリオンネット]テアトロ・ピラータ[指揮]コロド・ロヴァリス[演奏]アカデミア・パロッカ・デ・イ・ヴィルトゥオージ・イタリアーニ、アントネッラ・モレス（チェンバロ） [収録]2010年12月ベルゴレージ劇場（イエージ、イタリア・マルケ州） [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全3幕：約2時間7分 |
| ポローニャ歌劇場2017『カヴァレ リア・ルスティカーナ』 | 4, 5, 6, 7, 8, 10, 16 | シチリア島を舞台に、三角関係のもつれから裏切られた女の嫉妬が招く殺人。実在の事件を基に作曲したマスカーニの出世作。指揮はミケーレ・マリオッティ。 | [出演]マルコ・ベルティ（トゥリッドゥ／テノール） カルメン・トプチウ（サントウツァ／メゾ・ソプラノ） ゲジム・ミシュクタ（アルフィオ／バリトン） アナスタシア・ポルドイレヴァ（ローラ／メゾ・ソプラノ） クラウディア・マルキ（ルチア／メゾ・ソプラノ） [演目]ピエトロ・マスカーニ：1幕のメロドラマ『カヴァレリア・ルスティカーナ』[台本]ジョヴァンニ・タルジョーニ=トツヴェッティ、グイード・メナッシ[原作]ジョヴァンニ・ヴェルガの同名小説とそれに基づく同人による戯曲『カヴァレリア・ルスティカーナ』[演出]エンマ・ダンテ[装置]カルミネ・マリッゴーラ[衣裳]ヴァネッサ・サンニエーノ[照明]クリスティアン・ズカーロ[振付]マヌエラ・ロー・シッコ[指揮]ミケーレ・マリオッティ[演奏]ポローニャ市立劇場管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]アンドレア・ファイドウツィ[収録]2017年4月ポローニャ市立劇場[映像監督]アルナルダ・カナリ ■字幕／全1幕：1時間30分（番組枠） |
| マルコンのガルツピ『オリンピアード』 | 2, 12, 15 | この番組は、後期バロックのイタリアの作曲家バルダッサーレ・ガルツピ（1706～1785）による、古代オリンピックに題材にとったオペラ。2006年10月、作曲家の生誕300年を記念したヴェネツィアのマリブラン劇場での上演です | [出演]マーク・タッカー（クリステアネ／テノール） ルース・ロジク（アリスティア／ソプラノ） ロミーナ・パッソ（メガークレ／メゾ・ソプラノ） フランツィスカ・ゴットヴァルト（リチーダ／メゾ・ソプラノ） ロベルタ・インヴェルニツィ（アルジェーネ／ソプラノ） フリオ・ザナージ（アルカンドロ／バリトン） フィリッポ・アダミ（アミンタ／テノール） [演目]バルダッサーレ・ガルツピ：3幕のドラマ・ベル・ムジカ『オリンピアード』[台本]ピエトロ・メタスタージオ[演出]ドミニク・プーランジェ[装置&衣裳]フランチェスコ・ジート[照明]ファビオ・バレッティン[指揮&チェンバロ]アンドレア・マルコン[演奏]ヴェニス・バロック・オーケストラ[収録]2006年10月マリブラン劇場（ヴェネツィア） [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全3幕：約3時間30分 |
| ローマ歌劇場2017『ファウストの 劫罰』 | 11, 12, 13, 14, 15, 23 | ベルリオーズの劇的物語が鬼才ダミアノ・ミキエレット演出によるオペラ上演として話題沸騰のローマ歌劇場公演！指揮は2018年12月より同歌劇場音楽監督に就任したダニエレ・ガッティ。 | [出演]バヴェル・チェルノフ（ファウスト／テノール） アレックス・エスポージト（メフィストフェレス／バス・バリトン） ヴェロニカ・シメオーニ（マルグリート／メゾ・ソプラノ） ゴラン・ユリッチ（ブランデル／バス） [演目]エクトール・ベルリオーズ：4部の劇的物語『ファウストの劫罰』Op.24[台本]アルミール・ガンドニエール&エクトール・ベルリオーズ[原作]ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの詩劇『ファウスト』のジェラルド・ド・ネルヴァルによるフランス語訳 [演出]ダミアノ・ミキエレット [装置]パオロ・ファンティン [衣裳]カルラ・テータ [照明]アレクサンドロ・カルレツィ [ビデオ]ロカ・フィルム [パントマイム]キアラ・ヴェッキ [指揮]ダニエレ・ガッティ [演奏]ローマ歌劇場管弦楽団及び同合唱団、同合唱学校[合唱指揮]ロベルト・ガッピアーニ[収録]2017年12月14日ローマ歌劇場[映像監督]クラウディア・デ・トーマ ■字幕／全15場：約2時間12分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--|--|---|--|
| ロッシーニ・オペラ・フェスティバル 2010『デメトリオとポリビオ』 | 29, 31 | 聖地ペーザロで復活したロッシーニのオペラ処女作！のちのロッシーニらしさも随所に感じられるフレッシュな作品の貴重な上演機会。幻想的な炎の演出が彩る。 | [出演]マリア・ホセ・モレーノ（リジガノ/ソプラノ）ヴィクトリア・ザイツェヴァ（デメトリオ（シヴェーノ）/メゾ・ソプラノ）石倚潔<シー・イー・ジェ>（デメトリオ（エウメーネ）/テノール）ミルコ・バラツィ（ポリビオ/バス） [演目]ジョアキーノ・ロッシーニ：2幕のドラマ・セリオ『デメトリオとポリビオ』（ダニエーレ・カルニニ校訂版）[台本]ヴィンチェンツィーナ・ヴィガノー・モンベッリ [演出]ダヴィデ・リヴェルモーレ[装置&衣装]アカデミア・ディ・ベッレ・アルティ・ディ・ウルビーノ[照明]ニコラス・ボヴェイ[指揮]コラード・ロヴァリス[演奏]ロッシーニ交響楽団、プラハ室内合唱団、ジャンニ・ファッブリーニ（フォルテピアノ）アンドレア・アゴ스티ネッリ（通奏低音チェロ）[合唱指揮]リユボミール・マートル [収録]2010年8月10日テアトロ・ロッシーニ（ペーザロ）「ロッシーニ・オペラ・フェスティバル2010」[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕/全2幕：約1時間58分 |
| ロッシーニ・オペラ・フェスティバル 2013『アルジェのイタリア女』 | 22, 24, 25, 26, 27, 28, 29 | ロッシーニの喜劇オペラが、60年代のロマンティック・スパイ・コメディに変身。優れた歌唱力と美貌を誇るスター歌手ゴリャチョーフが、“イタリア女”を好演。 | [出演]アンナ・ゴリャチョーフ（イザベッラ/コントラルト）シー・イー・ジェ（リンドーロ/テノール）アレックス・エスポージト（ムスタファ/バス）マリオ・カッシ（タデオ/バス）マリアンジェラ・シチリア（エルヴィーラ/ソプラノ）ラッファエッラ・ルピナッチ（ズルマ/メゾ・ソプラノ）ダヴィデ・ルチアーノ（ハリ/バス） [演目]ジョアキーノ・ロッシーニ：オペラ（ドラマ・ジョコーソ）『アルジェのイタリア女』（アツィオ・コルギ校訂によるクリティカル・エディション） [台本]アンジェロ・アネッリ[演出]ダヴィデ・リヴェルモーレ[装置・照明]ニコラ・ボヴェイ[衣装]ジャンルーカ・ファラスキ[ビデオ・デザイン]D-Wok[指揮]ホセ・ラモン・エンシナル [演奏]ポローニャ市立劇場管弦楽団および同合唱団（合唱指揮：アンドレア・ファイドウツェ）[収録]2013年8月テアトロ・ロッシーニ（ペーザロ）[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕/全2幕：2時間40分（番組枠） |
| ロッシーニ・オペラ・フェスティバル 2018『リッチャルドとゾライデ』 | 15, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 30, | 上演機会の少ないレア作品に、ベルカントの王フロレスと超新星プリティ・イエンデら、ハイ・レベルのキャストが集結。ロッシーニの聖地ペーザロの真骨頂。 | [出演]ファン・ディエゴ・フロレス（リッチャルド/テノール）プリティ・イエンデ（ゾライデ/ソプラノ）セルゲイ・ロマノフスキー（アゴランテ/テノール）ニコラ・ウリヴィエリ（イルカーノ/バス）ヴィクトリア・ヤロヴァヤ（ゾミラ/メゾ・ソプラノ）シャビエル・アンドゥアーガ（エルネスト/テノール）ソフィア・ムチドリシヴィリ（ファティマ/ソプラノ）マルティニアーナ・アントニエ（エルミラ/メゾ・ソプラノ）ルジル・ガティン（ザモル/テノール） [演目]ジョアキーノ・ロッシーニ：2幕のドラマ・セリオ・ベル・ムジカ『リッチャルドとゾライデ』（フェデリコ・アゴ스티ネッリ&ガブリエーレ・グラヴァーニ校訂によるクリティカル・エディション）[台本]フランチェスコ・ペリオ・ディ・サルサ[演出]マーシャル・ピンコスキ[装置]ジェラルド・ガウチ[衣装]ミカエル・ジャンフランチェスコ[照明]ミシェル・ラムゼイ[振付]ジャンネッテ・ラジュネス・ツィング[指揮]ジャコモ・サグリバンティ[演奏]RAI国立交響楽団、ヴェンティーディオ・パッソ劇場合唱団[合唱指揮]ジョヴァンニ・ファリーナ[収録]2018年8月11日アドリアティック・アリーナ（ペーザロ）[映像監督]アリヰッパ・ベッディーニ ■字幕/全2幕：約2時間58分 |
| 映画『ラ・ボエーム』 | 2 | ブッチーニの才能を開花させたのが、4作目のオペラとなる『ラ・ボエーム』です。 | [出演]アンナ・ネトレブコ（ミミ/ソプラノ）ロランド・ピリヤソン（ロドルフォ/テノール）ニコル・キャベル（ムゼッタ/ソプラノ）ジョージ・フォン・ベルゲン（マルチェロ<声>ボアズ・ダニエル/バリトン）ヴィクトリ・コワリョフ（コツリーネ/バス）アドリアン・エレート（ショナル<声>ステファーン・ヌ・ドグー/バリトン）ティツィアーノ・ブラッチ（ペノワ/バス）イオアン・ホーレンダー（アルチンドーロ<声>ティツィアーノ・ブラッチ/バス）エルンスト＝ディーター・ズッターマー（バルビニョール<声>ケヴィン・コナーズ/テノール）コンラッド・フォーバー（関税官<声>ティツィアーノ・ブラッチ/バス）マリオ・シユテラー（巡査部長<声>ゲラルド・ホイスター/バス）ニコラス・フォン・デル・ナーマー（少年） [演目]ジャコモ・ブッチーニ：4幕のオペラ『ラ・ボエーム』[台本]ジュゼッペ・ジャコーザ&ルイーダ・イリカ[原作]アンリ・ミュルジェールの小説『ボヘミアンの生活風景』 [監督&脚色]ロバート・ドーンヘルム[撮影]ヴァルター・キンドラー[編集]イングリッド・コラー&クラウス・フンスビヒラー[装置]フロリアン・ライヒマン[衣装]ウリ・フェスラー [指揮]ベルトラン・ド・ビリー[演奏]バイエルン放送交響楽団及び同合唱団、ゲルトナー・ブラッツ州立劇場児童合唱団[合唱指揮]ウド・メールポール、ヴェレーナ・サッレ [音声収録]2007年4月ガスタイク・フィルハーモニー（ミュンヘン）でのコンサート収録[映像収録]映画の都ウィーンスタジオ（オーストリア） [制作]2008年 ■字幕/全4幕（映画版）：約1時間51分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|---|-------------------|---|--|
| コンサート | | | |
| BBCプロムス2016「ガーシュウィン再発見」 | 1, 9 | この番組は、アメリカの作詞家としてポピュラー及びクラシック音楽の両面で、弟ジョージ・ガーシュウィンと共に20世紀を代表する数多くの楽曲を残したアイラ・ガーシュウィン生誕120周年記念コンサート。 | <p>[演目]序曲〜ラプソディ・イン・ブルー〜（ジョージ・ガーシュウィン作曲/レイ・ハインドルフ編曲）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（サイ・オリヴァー&アクセル・ストルダール編曲）：映画『ガール・クレイジー』〜「TREAT ME ROUGH」、ハリ・ウォーレン&アイラ・ガーシュウィン（コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『ブロードウェイのバレー夫妻』〜「YOU'D BE HARD TO REPLACE」、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『巴里のアメリカ人』〜「I'LL BUILD A STAIRWAY TO PARADISE」（天国への階段）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（サイ・オリヴァー編曲）：映画『ガール・クレイジー』〜「FASCINATING RHYTHM」（魅惑のリズム）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『ガール・クレイジー』〜「BUT NOT FOR ME」（ハット・ナット・フォー・ミー）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『ジグフェルド・フォリーズ』〜「THE BABBITT AND THE BROMIDE」（凡人と俗人）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（ハーバート・スベンサー、フド・リヴィングストン&ロバート・ラッセル・ベネット編曲）：映画『踊らん哉』〜ファイナル・バレエ音楽、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（レオ・アルノー&コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『ストライク・アップ・ザ・バンド』〜「STRIKE UP THE BAND」（ストライク・アップ・ザ・バンド）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『パリの恋人』〜「FUNNY FACE」（ファニー・フェイス）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（エドワード・B・パウエル編曲）：映画『ゴールドウィン・フォリーズ』〜「LOVE WALKED IN」（歩み入る恋）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（アレクサンダー・カレッジ編曲）：映画『パリの恋人』〜「LET'S KISS AND MAKE UP」（キスして仲直り）、バートン・レイン&アイラ・ガーシュウィン（アンドレ・プレヴィン編曲）：映画『GIVE A GIRL A BREAK』〜「IN OUR UNITED STATE」、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（レオ・アルノー&コンラッド・サリンジャー編曲）：映画『ブロードウェイのバレー夫妻』〜「THE SWING-TROT」（スウィング・トロット）、ジェローム・カーン&アイラ・ガーシュウィン（カルメン・ドラゴン編曲）：映画『カバーガール』〜「LONG AGO AND FAR AWAY」（ロング・アゴー）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（コンラッド・サリンジャー & ジョニー・グリーン編曲）：映画『巴里のアメリカ人』〜「S WONDERFUL」（スワンダフル）、ハロルド・アーレン&アイラ・ガーシュウィン（レイ・ハインドルフ編曲）：映画『スタア誕生』〜「THE MAN THAT GOT AWAY」（去っていった彼）、ジョージ&アイラ・ガーシュウィン（サウル・チャップリン、コンラッド・サリンジャー & ロバート・フランクリン編曲）：映画『巴里のアメリカ人』〜バレエ音楽、ハロルド・アーレン&アイラ・ガーシュウィン（レイ・ハインドルフ編曲）：映画『スタア誕生』〜「I T ' S A N E W WORLD」（イツ・ア・ニュー・ワールド）、バートン・レイン&アイラ・ガーシュウィン：映画『GIVE A GIRL A BREAK』〜「APPLAUSE, APPLAUSE」</p> <p>[指揮]ジョン・ウィルソン[演奏]ジョン・ウィルソン・オーケストラ、ルイズ・ディアマン（ヴォーカル）マシュー・フォード（ヴォーカル）ジュリアン・オヴェンデン（ヴォーカル）マイダ・ヴェール・シンガーズ[合唱指揮]クリストファー・ディー</p> <p>[収録]2016年8月13日ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン）[映像監督]ブリジット・コールドウェル</p> |
| アーノンクール&ウィーン・フィル「モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番『トルコ風』」 | 6, 12 | 1980年代にニコラウス・アーノンクールが鬼才ヴァイオリニスト、ギドン・クレーメルと共にウィーン・フィルと取り組んだモーツァルト「ヴァイオリン協奏曲全集」は、これまでの既存概念を打ち砕く斬新な解釈が、当時大きな反響を巻き起こしました。 | <p>[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調K.219『トルコ風』</p> <p>[指揮]ニコラウス・アーノンクール[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ギドン・クレーメル（ヴァイオリン）</p> <p>[収録]1987年1月ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ロドニー・グリーンバーク</p> <p>■約31分</p> |
| アーノンクールの『ブランデンブルク協奏曲第3番』 | 7, 10, 11, 12, 13 | 20世紀の古楽運動の主導者としてクラシック音楽界に革命をもたらした、2016年3月に86歳で亡くなったニコラウス・アーノンクールと手兵「ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス」が、1982年に映像収録したJ・S・バッハの傑作『ブランデンブルク協奏曲』。 | <p>[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：ブランデンブルク協奏曲第3番ト長調BWV.1048</p> <p>[演奏]ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス</p> <p>[収録]1982年7月5日〜14日ヴィプリングゲン修道院図書館ホール（ウルム、ドイツ）</p> <p>[映像監督]クラウス・リンデマン</p> <p>■約14分</p> |
| アーノンクールのモーツァルト「交響曲第31番『パリ』」 | 1, 9, 31 | パリで一花咲かせようと考えたモーツァルトは、当時のパリのオーケストラの大きな編成にあわせたクラリネットを含む2管編成で作曲し、その華やかでスピード感のある音楽によって初演は大成功を収めた。 | <p>[演目]モーツァルト：交響曲第31番ニ長調K.297（300a）『パリ』[指揮]ニコラウス・アーノンクール[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]1984年ムジークフェラインザール（ウィーン）、約21分</p> |
| アルゲリッチ&バレンボイム「ピアノ・デュオ2015」 | 21, 24, 25, 26, | アルゼンチンが生んだ、わずか1歳違いのピアノ2大スター、アルゲリッチ&バレンボイムの凱旋デュオ公演。2回目は、ドビュッシーとバルトーク！ | <p>[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン（クロード・ドビュッシー編曲）：カノン形式による6つの小品Op.56、クロード・ドビュッシー：白と黒でL.134、バルトーク・ペラ：2台のピアノと打楽器のためのソナタSz.110[出演]マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）ダニエル・バレンボイム（ピアノ）ペドロ・マヌエル・トレホン・ゴンザレス&レフ・ロフトス（パーカッション）[収録]2015年7月コロソ劇場（プエノスアイレス）[映像監督]ティロ・クラウス</p> <p>■約1時間12分</p> |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--------------------------------------|------------------------------------|--|--|
| アレーナ・ディ・ヴェローナ2019「ドミンゴ50周年オペラ・ガラ」 | 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 30, 29 | アレーナ・ディ・ヴェローナ音楽祭デビュー50周年を迎えたオペラ界のスーパースター、プラシド・ドミンゴ。ヴェルディ・バリトンとしての現在位置を示す、貴祿のアニヴァーサリー・ガラ！ | <p>〔演目〕 ジェゼッペ・ヴェルディ： 歌劇『ナブッコ』（序曲、第3幕抜粋、第4幕） 歌劇『マクベス』第4幕 歌劇『シモン・ボッカネグラ』（第2、3幕抜粋）</p> <p>〔指揮〕 ジョルディ・ベルナセル 〔演奏〕 アレーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団・合唱団・バレエ団（合唱指揮＝ヴィート・ロンバルディ） 〔出演〕 『ナブッコ』プラシド・ドミンゴ（ナブッコ／バリトン） アンナ・ピロツィ（アビガイル／ソプラノ） マルコ・ミカ（ザツカリヤ／バス・バリトン） ジェラルディーヌ・ショヴェ（フェネーラ／メゾ・ソプラノ） アルトゥーロ・チャコン＝クルス（イズマエーレ／テノール） エリザベッタ・ジッツォ（アンナ／ソプラノ） ロマーノ・ダル・ゾーヴォ（パール神の大司祭／バス） カルロ・ボージ（アブダッロ／テノール） 『マクベス』プラシド・ドミンゴ（マクベス／バリトン） アンナ・ピロツィ（マクベス夫人／ソプラノ） アルトゥーロ・チャコン＝クルス（マクダフ／テノール） カルロ・ボージ（マルコム／テノール） ロマーノ・ダル・ゾーヴォ（医者／バス） ロリー・ガルシア（侍女／メゾ・ソプラノ） シモン・ボッカネグラ・プラシド・ドミンゴ（シモン・ボッカネグラ／バリトン） アンナ・ピロツィ（アメリア・グリマルディ／ソプラノ） マルコ・ミカ（ヤコボ・フィエスコ／バス・バリトン） アルトゥーロ・チャコン＝クルス（ガブリエーレ・アドルノ／テノール）</p> <p>〔演出〕 ステファノ・トレスピーディ 〔舞台美術・映像〕 エツィオ・アントネッリ 〔衣裳〕 シルヴィア・ボネッティ 〔照明〕 パオロ・マッツォン 〔振付〕 ジュゼッペ・ピコーネ 〔バレエ・コーディネーター〕 ガエターノ・ベトロジノ 〔収録〕 2019年8月4日 イタリア、アレーナ・ディ・ヴェローナ 〔映像監督〕 ティツィアーノ・マンシーニ</p> <p>■2時間45分（番組枠）</p> |
| ガーディナー＆バイエルン放送響「宗教曲の夕べ」 | 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29 | 「古楽出身の巨匠」×「宗教曲にも定評ある世界屈指のオーケストラ＆合唱団」による、全身全霊からほとばしる熱気と厚い信仰の空間！ | <p>〔指揮〕 ジョン・エリオット・ガーディナー</p> <p>〔管弦楽〕 バイエルン放送交響楽団 〔合唱〕 バイエルン放送合唱団 〔合唱指揮〕 ベーター・ダイクストラ 〔出演〕 ルーシー・クロウ（ソプラノ） ジェニファー・ジョンストン（メゾ・ソプラノ） トビー・スペンス（テノール） ギュンター・グロイスベック（バス）</p> <p>〔曲目〕 フランツ・ヨーゼフ・ハイドン：モテット「度の過ぎた空しき苦悩」Hob.X X I：1-13c フェリックス・メンデルスゾーン：交響曲第5番二短調Op.107「宗教改革」アントン・ブルックナー：ミサ曲第1番 二短調 1.キリエ／2.グロリア／3.クレド／4.サンクトゥス／5.ベネディクトゥス／6.アニュス・デイ</p> <p>〔収録〕 2014年5月29日 ガスタイク・フィルハーモニー（ミュンヘン） 〔映像監督〕 ティロ・クラウゼ</p> <p>■1時間35分（番組枠）</p> |
| ガッティ＆コンセルトヘボウ管2016「ワーグナー、リスト＆ベルリオーズ」 | 10, 20 | 2016年秋に首席指揮者就任を控えていたガッティとコンセルトヘボウ管が、同年春に本拠地で共演。19世紀ロマン派の傑作3曲で、情熱と色彩を存分に魅せる。 | <p>〔演目〕リヒャルト・ワーグナー：歌劇『タンホイザー』～序曲（ドレスデン版）、フランツ・リスト：交響詩第4番『オルフェウス』S.98、エクトール・ベルリオーズ：幻想交響曲Op.14（第1楽章「夢、情熱」第2楽章「舞踏会」第3楽章「野の風景」第4楽章「断頭台への行進」第5楽章「ワルブルギスの夜の夢」） 〔指揮〕 ダニエレ・ガッティ 〔演奏〕 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団 〔収録〕 2016年4月1日コンセルトヘボウ（アムステルダム） 〔映像監督〕 ディック・カイス</p> <p>■約1時間37分</p> |
| カラヤン＆ベルリン・フィル『ベートーヴェン：運命』1966年製作版 | 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, | 帝王カラヤンが最初に挑んだ「映像のベートーヴェン」。フランスの巨匠クルーゾーの映像表現が光る20世紀の音楽遺産。1966年制作のモノクロ映像は画質も鮮明。 | <p>〔曲目〕 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第5番八短調Op.67『運命』</p> <p>〔指揮〕 ヘルベルト・フォン・カラヤン 〔管弦楽〕 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団</p> <p>〔収録〕 1966年1、2月、ユニオン・スタジオ・アトリエ、ベルリン 〔映像監督〕 アンリ＝ジョルジュ・クルーゾー</p> <p>■40分（番組枠）</p> |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--------------------------------------|------------------------|---|---|
| ギルバートの「オデオンスブラッツ・コンサート2019」フレミングを迎えて | 2 | アメリカの国民的歌手 & ニューヨーク出身の名指揮者を迎えた、極上の野外公演。凝りに凝った“アメリカン・プログラム”が、ミュンヘンの夏の夜空に響きわたる。 | <p>[演奏]アラン・ギルバート（指揮）、ルネ・フレミング（ソプラノ）、バイエルン放送交響楽団</p> <p>[演出]〈前半〉 ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』から「ボロネーズ」 ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』から「私は破滅してもいい」（手紙の場面） エーリヒ・ヴォルフガング・コロンゴルト：歌劇『カトリーヌ』から「私は彼に、もう決して、決して会ってはならない」（手紙の場面） レナード・バーンスタイン：『ミュージカル「オン・ザ・タウン」から3つのダンス・エピソード』から第2曲「ロンリー・タウン（パ・ド・ドゥ）」 フリードリヒ・フォン・フロトー：歌劇『マルタ』から「夏の名残のばら（庭の千草）」 リチャード・ロジャース & オスカー・ハマースタイン2世：ミュージカル『回転木馬』から「人生ひとりではない」 ～アンコール～ ジョージ・ガーシュウィン：歌劇『ボーギーとベス』から「サマータイム」エーリヒ・ヴォルフガング・コロンゴルト：歌劇『死の都』から「私に残された幸せは」（マリエッタの唄） 〈後半〉 ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：交響曲第5番ホ短調Op.64 ～アンコール～ レナード・バーンスタイン：『管弦楽のためのディヴェルティメント』から第2曲「ワルツ」ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』から「ワルツ」</p> <p>[収録]2019年7月13日 オデオンスブラッツ（ミュンヘン）「オデオンスブラッツ・コンサート2019」[映像監督]エリーザベト・マルツァー ■1時間50分（番組枠）</p> |
| クーベリック&ウィーン・フィル『モーツァルト：プラハ』 | 11, 12, 13, 14, 15, | 50代後半の円熟期を迎えた巨匠ラファエル・クーベリックが、ウィーン・フィルでモーツァルトを指揮した番組。改めてクーベリックという指揮者の存在感が感じられる映像。 | <p>[演出]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：交響曲第38番ニ長調K.504『プラハ』[指揮]ラファエル・クーベリック[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]アルネ・アルンボム[制作]1971年 ■約26分</p> |
| クーベリック&コンサートヘボウ『ベートーヴェン：レオノーレ序曲第3番』 | 2, 4, 12, 20, 22, 29 | 20世紀を代表するチェコ出身の指揮者ラファエル・クーベリック50代のベートーヴェン。1960年代コンサートヘボウ管のサウンドも見どころ。 | <p>[演出]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：『レオノーレ』序曲第3番ハ長調Op.72a[指揮]ラファエル・クーベリック[演奏]アムステルダム・コンサートヘボウ管弦楽団[収録]1969年コンサートヘボウ（アムステルダム）[映像監督]エーケ・ファルク ■約17分</p> |
| クライバーの序曲『コリオラン』 | 29, 30, 31 | おそらく映像として遺されたクライバー最後の指揮姿。まずは冒頭の音にご注目。歳を重ねてもセクシーな指揮ぶりや音楽の疾走感、HDになって改めて巨匠の凄さをリアルに堪能できる。 | <p>[演出]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：序曲『コリオラン』Op.62[指揮]カルロス・クライバー[演奏]バイエルン州立歌劇場管弦楽団[収録]1996年10月21日ヘルクレスザール（ミュンヘン）[映像監督]ホラント・H・ホルフェルト ■約11分</p> |
| コンサートヘボウの「ピアソラとヴィヴァルディの四季」 | 22, 24, 25, 26, 27, 28 | 世界三大オーケストラの一つ、コンサートヘボウ管の名手たちが奏でる、ヴィヴァルディとピアソラという二人の作曲家の『四季』。イタリア・パロックとアルゼンチン・タンゴの世界が共鳴する。 | <p>[演出]アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集『四季』Op.88～第1番ホ長調RV.269『春』、アストル・ピアソラ：ブエノスアイレスの夏、アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集『四季』Op.8～第2番短調RV.315『夏』、アストル・ピアソラ：ブエノスアイレスの秋、アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集『四季』Op.88～第3番ハ長調RV.293『秋』、アストル・ピアソラ：ブエノスアイレスの冬、アントニオ・ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集『四季』Op.88～第4番短調RV.297『冬』、アストル・ピアソラ：ブエノスアイレスの春[演奏]ヴェスコ・エシュケナージ（ヴィヴァルディ『四季』ヴァイオリン独奏）リヴィウ・ブルナル（ピアソラ『ブエノスアイレスの四季』ヴァイオリン独奏）ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団メンバー[収録]2014年6月27日コンサートヘボウ（アムステルダム）[映像監督]ディック・カイス ■約1時間14分</p> |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|------------------------------------|------------------------|---|--|
| シャイアー & ゲヴァントハウス管『千人の交響曲』 | 7, 10, 11, 12, 13 | 正統的なアプローチから豊かな歌が溢れ出るマーラー。作曲家没後100年を記念する「ライブツィヒ国際マーラー音楽祭」のフィナーレを飾った名演。 | [演目]グスタフ・マーラー：交響曲第8番変ホ長調『千人の交響曲』（第1部：ラテン語賛歌「来たれ創造主たる聖霊よ」第2部：ゲーテ『ファウスト』第2部より終末の場）[指揮]リッカルド・シャイアー[演奏]ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団及び同合唱団、同児童合唱団、MDR放送合唱団、ライブツィヒ歌劇場合唱団、聖トーマス教会合唱団、エリカ・ズネガルド（ソプラノ1/罪深き女）リカルダ・メルベート（ソプラノ2/贖罪の女）クリスティアネ・エルツェ（ソプラノ3/栄光の聖母）リオバ・ブラウン（アルト1/サマリアの女）ゲルヒルト・ロンベルガー（アルト2/エジプトのマリア）ステファン・グールド（テノール/マリア崇拜の博士）ディートリヒ・ヘンシェル（バリトン/法悦の神父）ゲオルク・ツェッペンフェルト（バス/瞑想の神父）[合唱指揮]ハワード・アーマン、ゲオルグ・クリストフ・ピラー、フランク＝シュテフェン・エルスター、フォルクマル・オルブリヒ [収録] 2011年5月26日 & 27日ゲヴァントハウス（ライブツィヒ）「ライブツィヒ国際マーラー音楽祭」[映像監督] ミヒャエル・ベイヤー ■字幕/約1時間34分 |
| シャイアー「ミラノのためのコンサート2018」 in ドゥオーモ広場 | 5, 16 | ミラノに行ったら誰もが必ず訪れるドゥオーモ（大聖堂）の広大な広場が、約40,000人の観客を集めるコンサート会場になる！2013年から始まった「ミラノのためのコンサート」は、毎年6月にスカラ・フィルハーモニー管弦楽団（ミラノ・スカラ座管弦楽団）が行っている野外の無料クラシック・コンサートです。 | [演目]ビョートル・イリイチ・チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番変ロ短調Op.23、エドヴァルド・グリーグ（グリゴリー・ロマンヴィチ・ギンズブルク編曲）：『ペール・ギュント』第1組曲Op.46～第4曲「山の魔王の宮殿にて」、モデスト・ムソルグスキー（モーリス・ラヴェル編曲）：組曲『展覧会の絵』（「プロムナード」「グノム」「古城」「テュイルリーの庭」「ビドロ（牛車）」「卵の殻をつけた雛の踊り」「サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ」「リモーゼの市場」「カタコンベ～ローマ時代の墓」「バーバ・ヤガー～鶏の足の上に建つ小屋」「キエフの大門）」、セルゲイ・ラフマニノフ：ヴォカリーズOp.34-14、ゼキーニャ・シニアプレウ：テニコ・テニコ[指揮]リッカルド・シャイアー[演奏]スカラ・フィルハーモニー管弦楽団、デニス・マツーフ（ピアノ）[収録]2018年6月10日ドゥオーモ広場（ミラノ）「ミラノのためのコンサート2018」[映像監督]パトリツィア・カルミネ ■字幕/約1時間30分 |
| シャイアー「ミラノのためのコンサート2019」 in ドゥオーモ広場 | 29, 31 | ミラノのドゥオーモ広場に40,000人の観客を集める恒例の野外コンサート。2019年は没後40年を迎えるニーノ・ロータをトリビュート。映画『道』のバレエ組曲は必見。 | [演目]アントニー・ドヴォルザーク：交響曲第9番短調Op.95,B.178『新世界より』、ニーノ・ロータ：バレエ組曲『道』（第1曲「田舎の結婚」「ザンパノの到着」第2曲「3人の演奏者と張り綱の上の『マット』」第3曲「サーカス」（ザンパノの音楽－ジャグラー－『マット』のヴァイオリン）第4曲「ザンパノの怒り」第5曲「ザンパノ、『マット』を殺す－ジェルソミーナの苦痛」第6曲「最後の雪の場面」「さらば、ジェルソミーナ」第7曲「ザンパノの孤独と涙」）/映画『オーケストラ・リハーサル』～「嘲笑」「ギャロップ」、アルトゥーロ・マルケス：ダンソン第2番[指揮]リッカルド・シャイアー[演奏]スカラ・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2019年6月9日ドゥオーモ広場（ミラノ）「ミラノのためのコンサート2019」[映像監督]パトリツィア・カルミネ ■1時間40分（番組枠） |
| ダウスゴー & デンマーク国立響『ドヴォルザーク：新世界より』 | 10, 11, 12, 13, 14, 31 | デンマーク国立交響楽団のプロジェクト「交響曲の夏」より、ニューヨークのナショナル音楽院院長に招かれたドヴォルザークが1893年にアメリカで作曲しカーネギーホールで初演された名曲。 | [演目]アントニー・ドヴォルザーク：交響曲第9番短調『新世界より』Op.95[指揮]トーマス・ダウスゴー[演奏]デンマーク国立交響楽団[収録]2009年6月19日DRコンサートホール（コペンハーゲン）「交響曲の夏」[映像監督]ウッフェ・ボルグヴァルト ■約46分 |
| ダウスゴー & デンマーク国立響『ブラームス：交響曲第1番』 | 3, 4, 5, 6, 7, 23 | デンマーク国立交響楽団のプロジェクト「交響曲の夏」よりブラームスの交響曲第1番。オーケストラの柔らかい暖かみのある音色と、豊田泰久が音響設計した新ホールの美しい内装も見どころ。 | [演目]ヨハネス・ブラームス：交響曲第1番短調Op.68[指揮]トーマス・ダウスゴー[演奏]デンマーク国立交響楽団[収録]2009年6月13日DRコンサートホール（コペンハーゲン）「交響曲の夏」[映像監督]アルネ・ラスムッセン ■約50分 |
| ダニール・トリフォノフ「新しいショパンを弾く」 | 2 | 人気ピアニストのトリフォノフがミハイル・プレトニョフ編曲による2曲の新しいショパン「ピアノ協奏曲」を初演したドルトムントでの注目のコンサート。 | [演目]フレデリック・フランソワ・ショパン/ミハイル・プレトニョフ編曲：ピアノ協奏曲第2番短調Op.21/ピアノ協奏曲第1番短調Op.11、フレデリック・フランソワ・ショパン：幻想即興曲嬰ハ短調（遺作）Op.66、ロベルト・アレクサンダー・シューマン：『謝肉祭』Op.9～第12番「ショパン」[指揮]ミハイル・プレトニョフ[演奏]マーラー・チェンバー・オーケストラ、ダニール・トリフォノフ（ピアノ）[収録]2017年4月30日コンツェルトハウス（ドルトムント）[映像監督]ハンス・ハドゥッラ ■約1時間33分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--------------------------------------|---------------------|--|--|
| タンゴ・ヌエボ〜ピアソラ自作自演集 | 1, 3, 4, 5, 6, 9 | タンゴの巨匠アストル・ピアソラ晩年のロンドンでのスタジオ・ライブ。『アディオス・ノニーノ』『天使のミロンガ』『ブエノスアイレス午前零時』『ムムキ』といった傑作が作曲家自身のバンドネオンと解説付で。 | [演目]アストル・ピアソラ：天使のミロンガ、タンゲディアⅢ、ムムキ、ブエノスアイレス午前零時、アディオス・ノニーノ、セクス=テット[出演]アストル・ピアソラ、ダニエル・ピネリ（バンドネオン）ホセ・ブラガート（チェロ）エクトル・コンソレ（ダブルベース）オラシオ・マルビチーノ（ギター）ヘラルド・ガンディーニ（ピアノ）[インタビュー映像]ヤナ・ボコヴァ監督「私のタンゴ」より[収録]1989年プリストル（英国） ■字幕／約48分 |
| チェーリア・バルトリ『カストラートの芸術』 | 3, 4, 5 | 17世紀に隆盛を誇ったカストラート（去勢高音男声歌手）は、ファリネッリやカファレッチといったスーパースターの出現によって一世を風靡し、多くの作曲家が彼らを想定したオペラを書き残した。 | [演目]ニコラ・アントニオ・ポルボラ：歌劇『シファーチェ』〜「波の直中の船のように」、ジェミニアーノ・ジャコモリ：歌劇『メローペ』〜「妻よ、わたしが分らぬか…」、ジェミニアーノ・ジャコモリ：歌劇『ドイツのジェルマニコ』〜シンフォニア、フランチェスコ・アラーア：歌劇『バレンーチェ』〜「私は落ちるだろう、まるで見るように」、ニコラ・アントニオ・ポルボラ：歌劇『ドイツのジェルマニコ』〜「私は出立する、君をおいて、愛しの人よ」/歌劇『身分の知れたセミラミデ』〜「幾多の激情の腕の中」/歌劇『アデライーデ』〜「気高い水は」/歌劇『シファーチェ』〜「不幸な夜鳴きウグイスは」、リカルド・プロスキ：歌劇『アルタセルセ』〜「私は振り乱される船のようだ」、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：歌劇『セルセ』〜オンブラ・マイ・フ[指揮]ジョヴァンニ・アントニーニ[演奏]イル・ジャルディーノ・アルモニコ、チェーリア・バルトリ（メゾ・ソプラノ）[収録]2009年9月カゼルタ宮殿（ナポリ近郊）[映像監督]オリヴィエ・シモーネ ■字幕／約1時間3分 |
| チャイコフスキー：弦楽セレナード 八長調 | 13, 18, 31 | チャイコフスキーが敬愛するモーツァルトの精神に立ち返るといふ意図で作曲した弦楽オーケストラの傑作。2000年ザルツブルク冬の音楽祭「モーツァルト週間」でのバイエルン・カンマーフィルの演奏。 | [演目]ビョートル・イリイチ・チャイコフスキー：弦楽セレナード 八長調 Op. 48[指揮]フィリップ・グリーンバーク[演奏]バイエルン・カンマーフィルハーモニー管弦楽団[収録]2000年1月モーツァルテウム（ザルツブルク）「モーツァルト週間」[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約34分 |
| ティーレマン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：運命』 | 21, 22, 24, 25, 26, | 21世紀初となるウィーン・フィルのベートーヴェン交響曲全集映像の指揮者はティーレマン。作曲家が冒頭を指して「運命はこのように戸を叩く」と語ったと伝えられる『運命』。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第5番八短調Op.67『運命』[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2010年4月ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]カリナ・フィビッ ■約41分 |
| ティーレマン&シュターツカペレ・ドレスデン『ブルックナー：交響曲第3番』 | 1, 9 | しなやかな弦、深く柔らかな管、類まれな緊張感が生んだ緻密で濃厚なドイツ音楽の真髄！ | [演目]アントン・ブルックナー：交響曲第3番二短調WAB.103（1877年第2稿）[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]シュターツカペレ・ドレスデン[収録]2016年9月2日 & 3日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）[映像監督]エリーザベト・メルツァー ■約1時間9分 |
| ティーレマン「ワイマールのリスト生誕200年コンサート」 | 19, 20, 21, 24, 25 | リスト生誕200年にあたる2011年10月22日にドイツ・ワイマールで行われた生誕記念コンサート。 | [演目]リヒャルト・ワーグナー：歌劇『タンホイザー』序曲、フランツ・リスト：ピアノ協奏曲第2番イ長調S.125/死の舞踏S.126/コンソレーションS.172〜第3番変ニ長調/交響詩第3番『前奏曲』S.97 [指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]フランツ・リスト・プロジェクト・オーケストラ、コンスタンティン・シチェルバコフ（ピアノ） [収録]2011年10月22日ワイマール・ハレ[映像監督]ティロ・クラウス ■約1時間25分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|-------------------------------------|-------------------------|--|--|
| デトレフ・グラナート『ヒエロニムス・ボスのためのレクイエム』 | 1, 9, 19, 27, | 謎の天才画家ヒエロニムス・ボスの没後500年を記念する大作レクイエム。清らかな昇天も魂の浄化もない、激しいエネルギーに満ちた現代の傑作の誕生！ | [演目]デトレフ・グラナート：ヒエロニムス・ボスのためのレクイエム[指揮]マルクス・シュテンツ[演奏]ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、オランダ放送合唱団、アガ・ミコライ（ソプラノ）ウルズラ・ヘッセ・フォン・デン・シュタイネン（メゾ・ソプラノ）ゲアハルト・ジーゲル（テノール）クリストフ・フィッシュャー（バス）デイヴィット・ウィルソン＝ジョンソン（バリトン／語り）レオ・ファン・ドゥセラール（オルガン）[合唱指揮]エドワード・キャズウェル [収録] 2016年11月11日 聖ヤン大聖堂（デン・ボス、オランダ） [映像監督] ロブ・ヴァン・デン・ベルク ■字幕／約1時間28分 |
| バーンスタイン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン:運命』 | 14, 15, 17, 18, 19, 20, | 20世紀の音楽遺産として語り継がれる伝説のベートーヴェン・ライヴ。40年たった今なお、まったく色あせることのない、ウィーン・フィルとの不滅の金字塔！ | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第5番 八短調 Op.67『運命』 [指揮] レナード・バーンスタイン [管弦楽] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 1977年9月8,9日、ウィーン・コンツェルトハウス（ライヴ） [録音ディレクター] ジョン・マクルーア [映像監督] ハンフリー・バートン ■45分（番組枠） |
| バーンスタイン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第4番』 | 2 | バーンスタインとウィーン・フィルの不滅のベートーヴェン・ライヴ。指揮者・オーケストラが一体となり、生き生きとしたエネルギーに溢れた幸せな記録！ | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第4番 変ロ長調 Op.60 [指揮] レナード・バーンスタイン [管弦楽] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録] 1978年10-11月、ウィーン楽友協会大ホール（ライヴ） [録音ディレクター] ジョン・マクルーア [映像監督] ハンフリー・バートン ■45分（番組枠） |
| バーンスタインのシューマン『交響曲第2番』 | 11, 20, 21, 24, 25, 27 | シューマン交響曲の中で最も美しい楽章と称され、バーンスタイン自身「ピアノッシモの一大悲劇」と呼んだ第3楽章など、見どころ聴きどころも満載。 | [演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：交響曲第2番 八長調 Op.61 [指揮]レナード・バーンスタイン [演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]1985年10月23日～11月6日 ムジークフェラインザール（ウィーン） [映像監督]ハンフリー・バートン ■約48分 |
| パッパーノ&シュターツカペレ・ドレスデン『ラフマニノフ：交響曲第2番』 | 5, 6, 7, 10, 11 | 古都ドレスデン。街にゆかりの作品の豊かな歌を引き出して大成功を飾った、アントニオ・パッパーノの、古豪シュターツカペレ・ドレスデンへの見事なデビュー公演！ | [演目]セルゲイ・ラフマニノフ：交響曲第2番 変ホ短調 Op.27 [指揮]サー・アントニオ・パッパーノ [演奏]シュターツカペレ・ドレスデン [収録]2018年7月8日～10日 ゼンパー・オーパー（ドレスデン） [映像監督]ヤーノシュ・ダルヴァス ■字幕／1時間10分（番組枠） |
| バレンボイム&シュターツカペレ・ベルリン『ブルックナー：交響曲第1番』 | 8, 22, 24 | バレンボイムとシュターツカペレ・ベルリンの四半世紀にわたる蜜月の集大成とも言えるブルックナー。初期交響曲の初々しい覇気が弾けるダイナミックな演奏！ | [曲目] アントン・ブルックナー：交響曲第1番 八短調 WAB.101（リッツ版） [指揮] ダニエル・バレンボイム [演奏] シュターツカペレ・ベルリン [映像監督] ジャン＝ピエール・ロワジル [収録] 2017年1月5日、フィルハーモニー・ド・パリ ■約54分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|---------------------------------|---|---|---|
| ブクステフーデの「タベの音楽」 | 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31 | 清澄で厳粛、幻想的な祈りに触れるひととき。バッハも尊敬した北ドイツの大家ブクステフーデの「タベの音楽」を、ベルギーの精鋭古楽アンサンブルが再現。 | [演目]ディートリヒ・ブクステフーデ：カンタータ『神よ、われを救いたまえ』BuxWV34／トリオ・ソナタ 短調BuxWV272～ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバと通奏低音のための／コラール『来たれと天使に告げよ』BuxWV10／コラール『イエスはわが喜び』BuxWV60／トリオ・ソナタ 二長調BuxWV267～ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバと通奏低音のための／シャコンヌ『イエスはわが生命の命』BuxWV62／コラール幻想曲『暁の星のいと美しきかな』BuxWV223[音楽監督]オリヴィエ・フォルタン（チェンバロ&オルガン）&リオネル・ムニエ（バス）[演奏]アンサンブル・マスク、ヴォックス・ルミニス[収録]2017年聖アウグスティン教会「AMUZ音楽センター」（アントワープ、ベルギー）[映像監督]パトリック・ラウゼ ■1時間45分（番組枠） |
| ブッフビンダー「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」Vol.4 | 3, 4 | ザルツブルク音楽祭の長い歴史の中で、2014年に初めて実現したベートーヴェン「ピアノ・ソナタ全曲演奏会」。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第6番へ長調Op.10-2／第24番嬰へ長調Op.78『テレゼ』／第16番ト長調Op.31-1／第29番変ロ長調Op.106『ハンマークラヴィア』[ピアノ]ルドルフ・ブッフビンダー[収録]2014年8月12日モーツァルテウム大ホール（ザルツブルク）「ザルツブルク音楽祭2014」[映像監督]フレデリック・ドレスク ■1時間35分（番組枠） |
| ブッフビンダー「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」Vol.5 | 15, 23 | ザルツブルク音楽祭の歴史で初めて実現したベートーヴェン「ピアノ・ソナタ全曲演奏会」。第5日は、長閑な情緒あふれる田園と共に、中期の最高傑作の一つ『熱情』がハイライト。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第2番イ長調Op.2-2／第9番ホ長調Op.14-1／第15番二長調Op.28『田園』／第27番ホ短調Op.90／第23番へ短調Op.57『熱情』[ピアノ]ルドルフ・ブッフビンダー[収録]2014年8月13日モーツァルテウム大ホール（ザルツブルク）「ザルツブルク音楽祭2014」[映像監督]フレデリック・ドレスク ■約1時間37分 |
| ブッフビンダー「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」Vol.6 | 6, 17, 29 | ザルツブルク音楽祭の長い歴史の中で、2014年に初めて実現したベートーヴェン「ピアノ・ソナタ全曲演奏会」。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第11番変ロ長調Op.22／第20番ト長調Op.49-2／第8番ハ短調Op.13『悲愴』／第25番ト長調Op.79／第21番ハ長調Op.53『ワルトシュタイン』[ピアノ]ルドルフ・ブッフビンダー[収録]2014年8月19日モーツァルテウム大ホール（ザルツブルク）「ザルツブルク音楽祭2014」[映像監督]フレデリック・ドレスク ■約1時間26分 |
| ブッフビンダー「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」Vol.7 | 14, 17, 18, 19, | ザルツブルク音楽祭の長い歴史の中で、2014年に初めて実現したベートーヴェン「ピアノ・ソナタ全曲演奏会」。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第30番ホ長調Op.109／第31番変イ長調Op.110／第32番ハ短調Op.111[ピアノ]ルドルフ・ブッフビンダー[収録]2014年8月20日モーツァルテウム大ホール（ザルツブルク）「ザルツブルク音楽祭2014」[映像監督]フレデリック・ドレスク ■約1時間8分 |
| フローレス「モーツァルトのオペラ・アリアを歌う」 | 1, 3, 4, 5, 6, 7 | 史上最高のバルカント・テノールのモーツァルト初挑戦。モーツァルトゆかりの美しい劇場に響きわたる、情感豊かで強い説得力を持ったアリアの数々。 | [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：歌劇『コジ・ファン・トゥッテ』K.588～フェランドのアリア『愛の息吹き』、歌劇『牧人の王（羊飼いの王様）』K.208～アレクサンドロのアリア『陽の輝きの前に』、歌劇『ドン・ジョヴァンニ』K.527～序曲／ドン・オッターヴィオのアリア『あのひとの安らぎは私の安らぎ』『私の大切な人を慰めて』、歌劇『フィガロの結婚』K.492～序曲、歌劇『後宮からの逃走』K.384～ベルモンテのアリア『わたしはおまえの強さを信じ』、レチタティーヴォとアリア『あわれ、お夢よ！／息吹くそよ風』K.431（425b）、歌劇『皇帝ティートの慈悲』K.621～序曲／ティートのアリア『もしも帝国に、友なる神々よ』、歌劇『クレタの王イドメネオ』K.366～序曲、歌劇『魔笛』K.620～タミーノのアリア『なんと美しい絵姿』、歌劇『クレタの王イドメネオ』K.366～イドメネオのアリア『海から逃れたが』[指揮]リカルド・ミナーシ[演奏]チューリヒ歌劇場「ラ・シンティウラ」、ファン・ディエゴ・フローレス（テノール）[収録]2017年11月17日レジデンス宮殿「キュヴィエリ劇場」（ミュンヘン）[映像監督]ハンス・ハドゥラ ■約1時間15分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|-------------------------------------|--------------------------------|---|---|
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第10番』 | 1, 3, 4, 5, 9 | ウィーン・コンツェルトハウスでの全曲演奏会より、第1楽章の現れるピッツィカートの動機から『ハーブ』という愛称を持つ第10番は、各奏者の桁外れのテクニックが印象的。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第10番変ホ長調Op.74《ハーブ》 [演奏] コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月2日、ウィーン・コンツェルトハウス[映像監督]フレデリック・デレク ■ 34分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第11番』 | 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 16, | ウィーン・コンツェルトハウスでの全曲演奏会より第11番は、作曲家自身が付けた標題『セリオソ（真面目な）』の名の通り、短い曲ながら無駄のない緊張感あふれる映像。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第11番へ短調Op.95《セリオソ》 [演奏] コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月4日、ウィーン・コンツェルトハウス[映像監督]フレデリック・デレク ■ 約23分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第12番』 | 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 16, | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴァイオリニスト、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第12番変ホ長調Op.127 [演奏] コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月4日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■ 約41分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第13番「大フーガ付」』 | 12, 13, 14, 15, 17, 18, 19, 23 | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴァイオリニスト、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番変ロ長調Op.130、大フーガ Op.133 [演奏] コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月12日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■ 約47分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第13番』 | 26, 27, 28, 29, 31 | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴァイオリニスト、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番変ロ長調Op.130 [演奏] コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月2日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■ 約40分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第14番』 | 12, 13, 14, 15, 17, 18, 19, | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴァイオリニスト、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第14番嬰ハ短調Op.131 [演奏] コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月6日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■ 約40分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|------------------------------|-----------------------------|---|--|
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第15番』 | 19, 20, 21, 22, 24, 25, | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴィオラ奏者、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第15番イ短調 Op.132[演奏]ベルチャ四重奏団（第1ヴァイオリン：コリーナ・ベルチャ、第2ヴァイオリン：アクセル・シャハー、ヴィオラ：クシシュトフ・ホジェルスキー、チェロ：アントワーヌ・レデルラン）[収録]2012年5月8日ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■約47分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第16番』 | 19, 20, 21, 22, 24, 25, 26, | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴィオラ奏者、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第16番 へ長調Op.135 [演奏]コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月10日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■約27分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番』 | 2 | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴィオラ奏者、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番へ長調Op.59-1《ラズモフスキー第1番》 [演奏]コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月10日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■約44分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第8番』 | 2 | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴィオラ奏者、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第8番ホ短調Op.59-2《ラズモフスキー第2番》 [演奏]コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月6日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■約38分 |
| ベルチャ四重奏団『ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第9番』 | 1, 3, 4, 5, 9 | 新時代を疾走する弦楽四重奏団として、今世界的に最も注目されるベルチャ四重奏団は、ルーマニア人の女性ヴァイオリニスト、コリーナ・ベルチャとポーランド人男性ヴィオラ奏者、クシシュトフ・ホジェルスキーを中心に、1994年英国王立音楽大学で結成。英国をベースとする弦楽四重奏団では最も名前が売れた若手弦楽四重奏団として高い人気を誇る。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第9番八長調 Op.59-3《ラズモフスキー第3番》 [演奏]コリーナ・ベルチャ（第1ヴァイオリン） アクセル・シャハー（第2ヴァイオリン） クシシュトフ・ホジェルスキー（ヴィオラ） アントワーヌ・レデルラン（チェロ） [収録] 2012年5月8日、ウィーン・コンツェルトハウス [映像監督]フレデリック・デレク ■約34分 |
| ポゴレリチのショパン『前奏曲第25番』 | 9, 10, 13, 18, | | [演目]フレデリック・フランソワ・ショパン：前奏曲第25番嬰ハ短調Op.45[ピアノ]イーヴォ・ポゴレリチ[収録]1987年4月～5月レアレ・ディ・ラツコニージ城（トリノ近郊）[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約9分 |
| ボッケリーニ：チェロ協奏曲変ロ長調 | 4, 5, 6, 7, 10, 29 | モーツァルトと同時代の作曲家でチェリストとしても高名であったボッケリーニの数あるチェロ協奏曲の中で最も有名なもの。フランスのチェリスト、グザヴィエ・フィリップの端正で艶やかな美音に注目。 | [演目]ルイジ・ボッケリーニ：チェロ協奏曲第9番変ロ長調G.482[指揮]フィリップ・グリーンバーク[演奏]バイエルン・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、グザヴィエ・フィリップ（チェロ）[収録]2000年モーツァルテウム（ザルツブルク）「モーツァルト週間」[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約24分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--------------------------------|-------------------------|---|--|
| ミラノ・スカラ座「クリスマス・コンサート」2018 | 15, 26 | ミラノの聖夜を彩るスカラ座のクリスマス・コンサート。古楽系指揮者とのレアな顔合わせで、王道の戴冠ミサ、そしてヴィヴァルディの宗教曲も聴きもの！ | [演目] アントニオ・ヴィヴァルディ：弦楽のための協奏曲短調RV.157／モテット『おお、天においても地においても清きもの』RV.631／マニフィカトRV.610、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ミサ曲八長調K.317（戴冠ミサ）／モテット『アヴェ・ヴェルム・コルプス』K.618、フランツ・クサーヴァー・グルーバー：きよしこの夜 [指揮] ディエゴ・ファソリス [演奏]ミラノ・スカラ座管弦楽団及び同合唱団（合唱指揮＝ブルーノ・カゾーニ）ローザ・フェオラ（ソプラノ）アンナ＝ドリス・カピテリ（ソプラノ）エリーザベト・クールマン（メゾ・ソプラノ）マウロ・ペーター（テノール）ジャンルカ・ブラット（バス） [収録] 2018年12月 ミラノ・スカラ座 [映像監督] ダニエラ・ヴィスマラ ■字幕／約1時間17分 |
| ミンコフスキ&バルタバス「モーツァルトのレクイエム」 | 12, 13, 14, 17, 18 | ミンコフスキとバルタバス、二人の鬼才が強力タッグを組んだ、人・馬・音楽の幽玄なコラボレーション。ミンコフスキの「モツレク」が聴けるのはこの映像だけ！ | [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ミゼレーレ 短調K.85、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：キャロライン王妃の葬送のためのアンセム『シオンの道は悲しみ』HWV.264、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：レクイエム 二短調K.626（ランドン版）／アヴェ・ヴェルム・コルプスK.618[演出&振付]バルタバス[照明]ペルトラン・クデルク[出演]ヴェルサイユ馬術アカデミー[指揮]マルク・ミンコフスキ[演奏]ルーヴル宮音楽隊(レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル・グルノーブル)、ザルツブルク・パッサ合声団、ゲニア・キューマイヤー（ソプラノ）エリーザベト・クールマン（アルト）ジュリアン・ペール（テノール）チャールズ・デカイザー（バス）[合唱指揮]アロイス・グラスナー[収録]2017年1月29日&31日フェルゼンライトシュレ（ザルツブルク）「モーツァルト週間2017」 [映像監督]アンディ・ソマー ■字幕／約1時間12分 |
| ムターのモーツァルト「ピアノ三重奏曲集」 | 7, 13, 14, 17, 18 | モーツァルト晩年の充実期に作曲された「ピアノ三重奏」。ムター、プレヴィン、そして若手のミュー＝ショットの名手3人がモーツァルトの天才性を実感させる演奏を披露。 | [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ピアノ三重奏曲第6番八長調K.548／ピアノ三重奏曲第5番ホ長調K.542／ピアノ三重奏曲第4番変ロ長調K.502[演奏]アンネ＝ソフィー・ムター（ヴァイオリン）サー・アンドレ・プレヴィン（ピアノ）ダニエル・ミュー＝ショット（チェロ）[収録]2006年4月ピビエナ劇場（マントヴァ）[映像監督]クリスティアン・クルト・ヴァイス ■約1時間4分 |
| モーツァルト：クラリネット五重奏曲イ長調K.581 | 16, 25 | 2000年モーツァルト週間で評判を呼んだモーツァルトの室内楽の傑作。ザビーネ・マイヤーの人の声のような柔らかなクラリネットと、ハーゲン四重奏団の清冽なアンサンブルは必見。 | [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：クラリネット五重奏曲イ長調K.581、カール・マリア・フォン・ウェーバー：クラリネット五重奏曲変ロ長調Op.34, J.182～第3楽章[演奏]ザビーネ・マイヤー（クラリネット）ハーゲン四重奏団（第1ヴァイオリン：ルーカス・ハーゲン、第2ヴァイオリン：ライナー・シュミット、ヴィオラ：ヴェロニカ・ハーゲン、チェロ：クレメンス・ハーゲン）[収録]2000年1月モーツァルテウム（ザルツブルク）「モーツァルト週間」 ■約43分 |
| モーツァルト：弦楽五重奏曲第3番八長調K515 | 15, 17, 18, 19, 20, 21 | 既に解散しているウィーン弦楽六重奏団の、2002年モーツァルト週間での貴重映像。緩徐楽章は無類の美しさを誇り、長大な終楽章の風格と構成力を持つモーツァルト全盛期の傑作室内楽。 | [演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：弦楽五重奏曲第3番八長調K.515[演奏]ウィーン弦楽六重奏団[収録]2002年1月モーツァルテウム大ホール（ザルツブルク）「モーツァルト週間」 ■約47分 |
| ヤルヴィ&ドイツ・カンマーフィル「ブラームス：交響曲第1番」 | 6, 7, 8, 10, 11, 13, 16 | 2018年4月にシャンゼリゼ劇場で行われたばかりの、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルのブラームス交響曲ツィクルスから第1番！ | [演目]ヨハネス・ブラームス：交響曲第1番八短調Op.68／ハンガリー舞曲第3番へ長調／ハンガリー舞曲第10番ホ長調[指揮]パーヴォ・ヤルヴィ[演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団[収録]2018年4月4日シャンゼリゼ劇場（パリ）[映像監督]ジャン＝ピエール・ロワジル ■約57分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|---|---------------------------------|--|---|
| ヤルヴィ&ドイツ・カンマーフィル「ブラームス：交響曲第2番」 | 13, 14, 15, 17, 18, | 2018年4月にシャンゼリゼ劇場で2日間行われたパーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルのブラームス交響曲ツィクルスから、2日目メインの第2番を！ | [演目]ヨハネス・ブラームス：交響曲第2番 長調Op.73 / ハンガリー舞曲第1番 短調 / ハンガリー舞曲第6番 変ニ長調 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ [演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2018年4月5日 シャンゼリゼ劇場 (パリ) [映像監督]ジャン=ピエール・ロワジル ■約59分 |
| ヤルヴィ&ドイツ・カンマーフィル「ブラームス：交響曲第3番」 | 20, 21, 22, 24, 25, | 2018年4月にシャンゼリゼ劇場で行われたばかりの、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルによるブラームス交響曲ツィクルスから、先頭を切った第3番の模様を！ | [演目]ヨハネス・ブラームス：交響曲第3番 長調Op.90 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ [演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2018年4月4日 シャンゼリゼ劇場 (パリ) [映像監督]ジャン=ピエール・ロワジル ■約42分 |
| ヤルヴィ&ドイツ・カンマーフィル「ブラームス：交響曲第4番」 | 27, 28, 29, 31, | 2018年4月にシャンゼリゼ劇場で行われたばかりの、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルによるブラームス交響曲ツィクルスから、熱き第4番の名演を！ | [演目]ヨハネス・ブラームス：交響曲第4番 短調Op.98 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ [演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2018年4月5日 シャンゼリゼ劇場 (パリ) [映像監督]ジャン=ピエール・ロワジル ■約45分 |
| ヤルヴィのベートーヴェン『運命』 | 28, 29, 31 | 2009年ベートーヴェン音楽祭で話題を集めたヤルヴィとドイツ・カンマーフィルのベートーヴェン交響曲全曲演奏会より、音楽史上最も有名な交響曲第5番。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第5番 短調Op.67『運命』 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ [演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2009年9月10日 ベートーヴェンハレ (ボン) 「ベートーヴェンフェスト・ボン」 [映像監督]クリスティアン・クルト・ワイズ ■約36分 |
| ヤルヴィのベートーヴェン『交響曲第4番』 | 1, 3, 4, 5, 6, 7, 9 | 2009年に第11回を迎えたボンの「ベートーヴェン・フェスト」で最も話題を集めた、パーヴォ・ヤルヴィとドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団によるベートーヴェン交響曲全曲演奏会より、9月10日ベートーヴェンハレで行われた交響曲第4番のライブ映像。 | [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第4番 変ロ長調Op.60 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ [演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録] 2009年9月10日 ベートーヴェンハレ (ボン) 「ベートーヴェンフェスト・ボン」 [映像監督]クリスティアン・クルト・ワイズ ■約37分 |
| ユリア・フィッシャーのパガニーニ『ラ・カンパネラ』 | 3, 9, 18, 19, 20, 21 | リストがピアノ用に編曲し、フジ子・ヘミングらの演奏でも知られる『ラ・カンパネラ』の原曲。ヴァイオリンによるおなじみの旋律がオーケストラの鐘の音（鉄琴）と掛け合う。 | [演目]ニコロ・パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲第2番 短調Op.7～第3楽章 ロンド『ラ・カンパネラ』 [指揮]デイヴィッド・ジンマン [演奏]チュールヒ・トーンハレ管弦楽団、ユリア・フィッシャー（ヴァイオリン） [収録] 2011年7月8日 トーンハレ（チュールヒ）「デイヴィッド・ジンマン75歳誕生日ガラ・コンサート」 ■約10分 |
| ラスカトフ：W.A.M.の生涯からの5分間～ヴァイオリンと弦楽合奏・打楽器のための | 3 | 1953年モスクワ生まれの作曲家アレクサンドル・ラスカトフがギドン・クレーメルに捧げた、モーツァルトを引用したユーモアあふれる小品。2002年モーツァルト週間でのクレメラータ・バルティカ圧巻の演奏。 | [演目]アレクサンドル・ラスカトフ：W.A.M.の生涯からの5分間～ヴァイオリンと弦楽合奏・打楽器のための [演奏]ギドン・クレーメル & クレメラータ・バルティカ [収録] 2002年1月モーツァルトウム（ザルツブルク）「モーツァルト週間」 ■約8分 |
| ラトル&ロンドン響2016「ハイドンの四季」 | 8, 16, 28, 30, | ラトルが深い愛着と情熱を注ぐハイドン。ロンドン響と取り組んだ大作のオラトリオ『四季』の壮大にして清冽な演奏の模様を。ソリストと合唱もさすがの名唱！ | [演目]フランツ・ヨーゼフ・ハイドン：4部からなるオラトリオ『四季』Hob.XX I - 3（第1部「春」第2部「夏」第3部「秋」第4部「冬」） [台本]ゴットフリート・ヴァン・スヴィーテン男爵 [原作]ジェイムズ・トムソンの4部からなる叙事詩『四季』（ドイツ語翻訳） [指揮]サー・サイモン・ラトル [演奏]ロンドン交響楽団及び同合唱団、モニカ・エデル（ソプラノ） アンドリュー・ステイブルズ（テノール） フローリアン・ベッシュ（バリトン） [合唱指揮]サイモン・ハルシー [収録] 2016年4月16日 & 17日 バービカンホール（バービカンセンター内、ロンドン） [映像監督]ロードリ・ヒュー ■字幕 / 全4部：約2時間13分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--|--------------------------------|---|--|
| ラトル&ロンドン響2017「想像上のオーケストラの旅」 | 26, 27, 28, 31, | ラトルの思い入れ深いハイドンの抜粋曲集「想像上のオーケストラの旅」、ロンドン響と客席の楽しい一体感は見もの。コジュヒンとのバルトークも緊張感ある名演！ | [演目] リチャルト・ワーグナー：楽劇『トリスタンとイゾルデ』～前奏曲と愛の死、バルトーク・ベラ：ピアノ協奏曲第2番、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン（サイモン・ラトル構成）：交響曲、オラトリオ、宗教曲からの抜粋による「想像上のオーケストラの旅」（オラトリオ『天地創造』第1部第1日「ラルゴ」：混沌の描写）、『十字架上のキリストの最後の7つの言葉』終曲「地震」、歌劇『無人島』Hob.Ia:13序曲「シンフォニア」、交響曲第64番イ長調『時の移ろい』第2楽章「ラルゴ」、交響曲第6番『朝』第3楽章「メヌエット」、交響曲第46番ロ長調 Hob.I:46第4楽章「フィナーレ」、交響曲第60番ハ長調『うっかり者』第6楽章「フィナーレ」、オラトリオ『四季』第4部「冬」序奏、交響曲第45番嬰へ短調『告别』第4楽章「フィナーレ」、笛時計のための三重曲集Hob.XIX:1-32（抜粋）、交響曲第90番ハ長調第4楽章「フィナーレ」 [指揮]サー・サイモン・ラトル [演奏] ロンドン交響楽団、デニス・コジュヒン（ピアノ） [収録]2017年7月11日&12日パービカンホール（パービカンセンター内、ロンドン） [映像監督] ロードリ・ヒュー ■字幕/約1時間59分 |
| ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番ハ短調 | 2 | ワイセンベルクとカラヤンの抒情美とスケールの大きさ、ロマンティズムが存分に発揮された定番映像。目を閉じたカラヤンを左から撮影し、楽器が横に並ぶといったカラヤン独特のカットにも注目。 | [演目]セルゲイ・ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番ハ短調Op.18[指揮&映像監督]ヘルベルト・フォン・カラヤン[演奏]ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、アレクシス・ワイセンベルク（ピアノ） [収録]1973年9月フィルハーモニー（ベルリン） ■約39分 |
| ロシア・オペラ・フェスティバル40周年ガラ・コンサート | 30, 31 | フローレスらロシアニ歌いが勢揃い！ ロッシーニ研究と実践の最前線、ペーザロのロシアニ・オペラ・フェスティバルが開催40周年を記念するガラ・コンサート | [出演] ヴァレリア・ジラルデッロ（メゾ・ソプラノ） アンナ・ゴリャチョワ（メゾ・ソプラノ） アンジェラ・ミード（ソプラノ） クラウディア・ムスキーオ（ソプラノ） ニコラ・アライモ（バリトン） パオロ・ボルドーニヤ（バス・バリトン） ローレンス・ブラウンリー（テノール） カルロ・チーニ（バス） ルジル・ガティン（テノール） ミケーレ・ベルトゥージ（バス） フランコ・ヴァッサッロ（バリトン） [指揮] カルロ・リッツィ [管弦楽] RAI国立交響楽団 [合唱] ヴェンティーディオ・パッソ劇場合唱団（合唱指揮＝ジョヴァンニ・ファリーナ） [曲目] ジョアキーノ・ロッシーニ：『セビリアの理髪師』より序曲 フィガロのアリア「町の何でも屋に」（ヴァッサッロ） バルトロのアリア「私のような偉い医者に向かって」（ボルドーニヤ） 伯爵のアリア「もう逆らうをやめろ」（ブラウンリー） 『ランスへの旅』よりメリベア侯爵夫人とリーベンスコフ伯爵のシェーナと二重唱「私にどんな咎がありました？…気高き魂を、おお神よ！」（ゴリャチョワ&ガティン） 『チェネレントラ』よりドン・マニーフィコのアリア「娘のうちのどちらでも」（アライモ） ドン・ラミーロのアリア「そう、誓って彼女を見つけ出す」（フローレス） 『アルジェのイタリア女』より第1幕フィナーレ「殿様、離別の旅立ちに先だって」（ジラルデッロ、ゴリャチョワ、ムスキーオ、ボルドーニヤ、ブラウンリー、チーニ、ベルトゥージ） 『エルミオーネ』よりエルミオーネの大シェーナ「彼女が勝利するなんて！…」（ミード、ムスキーオ、チーニ、ガティン） 『ギョーム・テル』より序曲アルノールとテルの二重唱「どこに行く？ 何がお前を動揺させるのだ？」（フローレス&ベルトゥージ） テルのアリア「動くな、膝を地につけて」（ヴァッサッロ） アルノールのアリア「先祖より受け継いだ住処よ」（フローレス） 第4幕フィナーレ「すべては変わり、空が晴れ渡る」（ジラルデッロ、ミード、ムスキーオ、チーニ、フローレス、ベルトゥージ） [収録] 2019年8月21日、ペーザロ、ヴィトリフリーゴ・アレーナ（ロシアニ音楽祭ライブ） [映像監督] ダヴィデ・マンチーニ ■2時間15分（番組枠） |
| ワイマール・バッハ・カンタータ・アカデミー2015「リングのレクチャー&コンサート」 | 8, 10, 11, 12, 13, 14 | バッハの世界的権威のひとりである合唱指揮者ヘルムート・リング。80歳を超えた名匠が2014年に新たに組織した若手音楽家育成プログラムが「ワイマール・バッハ・カンタータ・アカデミー」です。 | [演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：カンタータ第131番『深き淵から主よ、われ汝を呼ばわる』BWV.131[指揮]ヘルムート・リング[演奏]ワイマール・バッハ・カンタータ・アカデミー（合唱） バッハ・カンタータ・アカデミー・アンサンブル（管弦楽） ユリア・ゾフィー・ワーグナー（ソプラノ） リディア・ヴィニエス・クルティス（アルト） ニコラス・ファン（テノール） トビアス・ベルント（バリトン） ライドゥン・ターナー（ヴィオラ・ダ・ガンバ） [収録]2015年8月ワイマール[映像監督] ティロ・クラウゼ ■字幕/約1時間12分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|--|--------------------|--|--|
| 佐渡裕&トーンキョウストラー管『マーラー：交響曲第5番』 | 1, 8, 9 | 当番組ではその「名コンビ」による初ドイツ・ツアーから、ハンブルクの新ホール、エルプフィルハーモニーで行われた公演をお送りします。 | [演目]グスタフ・マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調[出演]佐渡 裕（指揮）、ウィーン・トーンキョウストラー管弦楽団[収録]2019年5月16日 ハンブルク、エルプフィルハーモニー[映像監督]マーティン・ファイル ■1時間20分（番組枠） |
| 佐渡裕「真夏の夜のガラ・コンサート2019」in グラフェネック | 1, 2 | 佐渡裕が音楽監督として率いるトーンキョウストラー管弦楽団による夏の恒例のグラフェネック野外コンサート。2019年6月14日収録！ | [演目]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』～ポロネーズ、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー／アレクサンドル・グラズノフ編曲：なつかしい土地の思い出 Op.42～第3曲「メロディ」、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『スぺードの女王』～エレッキー公爵のアリア「私は貴女を愛しています」、ジョルジュ・ビゼー：歌劇『カルメン』～ハバネラ「恋は野の鳥」、ジュゼッペ・ヴェルディ：歌劇『ドン・カルロ』～ロドリゴの死「あなたを抱くことができるわたしは・・・わたしには最後の時がきた・・・私は死ぬ、けれど心は幸福感にあふれて」、ジャコモ・プッチーニ：歌劇『ジャンニ・スキッキ』～ラウレッタのアリア「わたしのお父さん」、ピエトロ・マスカーニ：歌劇『友人フリッツ』～間奏曲、ウンベルト・ジョルダーノ：歌劇『アンドレア・シェニエ』～ジェラルドのアリア「祖国の敵」、ジュール・マスネ：歌劇『エロディアーデ』～サロメのアリア「彼は優しい人」、フランツ・フォン・シュベ：喜歌劇『ウィーンの朝、昼、晩』～序曲、フリッツ・クライスラー／クリストフ・エーレンフェルナー編曲：ウィーン風狂想的幻想曲、フランツ・レハール：喜歌劇『微笑みの国』～スー・ホンのアリア「君は我が心のすべて」、サー・エドワード・エルガー：行進曲『威風堂々』第1番二長調Op.39-1より[指揮]佐渡裕[演奏]トーンキョウストラー管弦楽団、ソニア・ヨンチェヴァ（ソプラノ）リュドヴィク・テジエ（バリトン）エマニュエル・チェクナヴォリアン（ヴァイオリン） [収録] 2019年6月14日ヴォルケンツウルム野外劇場（グラフェネック） [映像監督]ハイデルンデ・ハシェク ■1時間25分（番組枠） |
| ドキュメンタリー & エンターテイメント | | | |
| 『サンサーシ宮殿コンサート』with パユ | 21, 24, 25, 26, 27 | ベルリン・フィル首席フルート奏者エマニュエル・パユが、2012年フリードリヒ大王生誕300年に因み、フルートに長け自ら作曲もした大王とそのゆかりの宮廷作曲家の作品をわかりやすく解説。 | [出演]エマニュエル・パユ（フルート）トレヴァー・ピノック（チェンバロ）カンマーアカデミー・ポツダム[演目]フリードリヒ大王：フルート協奏曲第3番ハ長調、ヨハン・ヨアヒム・グヴァンツ：無伴奏フルートのためのカプリッチョ ト長調、フランツ・ベンダ：フルート協奏曲ホ短調、カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ：無伴奏フルート・ソナタ イ短調Wq.132/H.562～アレグロ[収録]2011年サンサーシ宮殿（ポツダム） [映像監督]ペアトリクス・コンラッド ■字幕／約43分 |
| アーノンクールが語る『ブランデンブルク協奏曲第3番』 | 7, 10, 11, 12, 13 | 20世紀の古楽運動の主導者としてクラシック音楽界に革命をもたらした、2016年3月に86歳で亡くなったニコラウス・アーノンクールと手兵ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスが1982年に映像収録したJ・S・バッハの傑作『ブランデンブルク協奏曲』を、アーノンクール自身が解説。長年の研究に裏打ちされた彼独自のバッハ解釈と美意識が理解できる番組です。 | [出演]ニコラウス・アーノンクール [収録]1982年ヴァイプリングン修道院図書館ホール（ウルム、ドイツ） [監督]クラウス・リンデマン [制作]1983年 ■字幕／約15分 |
| ウェスト＝イースタン・ディヴァン・オーケストラ in ザルツブルク音楽祭2007 | 28, 31 | | [出演]ダニエル・バレンボイム、ウェスト＝イースタン・ディヴァン・オーケストラ、ピエール・ブレーズ、ロビン・ティチャーティ、ユルゲン・フリム、マルクス・ヒンターホイザー、パトリス・シェロー、クレメンス・ヘルスベルク[監督]クリスティアン・クルト・ヴァイス[制作]2007年 ■字幕／約56分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|-------------------------------------|------------------------------------|---|--|
| オットー・クレンペラー「ラスト・コンサート」 | 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 22, 23 | 20世紀の巨匠クレンペラーの最後のコンサート。そのリハーサルと本番の映像を中心に、そのキャリアと音楽作り、そして人間性を振り返る。 | [演目] ヨハネス・ブラームス：交響曲第3番へ長調Op.90より 他 [出演] オットー・クレンペラー（指揮） デヴィッド・ウィルトン（元フィルハーモニア管マネージングディレクター） ロッテ・クレンペラー（クレンペラーの娘） ウラディミール・アシュケナージ（指揮） アンソニー・ボモント（音楽学者） 他 [演奏] オットー・クレンペラー（指揮） フィルハーモニア管弦楽団 [制作] 2015年 [映像監督] フィロ・ブレフスタイン ■字幕/1時間20分（番組枠） |
| オットー・クレンペラー「ロング・ジャーニー～彼の生きた時代」 | 2, 8, 16, 3, 4, 5, 6, 7 | 20世紀の巨匠クレンペラーの波乱に満ちた生涯を、数多くの音源、資料、コメントから振り返る「長い旅」は、20世紀の歴史の証言でもある。 | [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：劇音楽『シテファン王』Op.117より序曲 [出演] オットー・クレンペラー（指揮） ロッテ・クレンペラー（クレンペラーの娘） ヴァルター・フェルゼンシュタイン（演出家） エルネスト・プロッホ（作曲家） パウル・デッサウ（作曲家） 他 [演奏] オットー・クレンペラー（指揮） フィルハーモニア管弦楽団、ニュー・フィルハーモニア管弦楽団 [制作] 1985年 [映像監督] フィロ・ブレフスタイン ■字幕/1時間45分（番組枠） |
| ダウスゴーが語る『ブラームス：交響曲第1番』 | 26, 27, 28, 31, | デンマーク国立交響楽団が2009年に行ったプロジェクト「交響曲の夏」より、ブラームスの交響曲第1番』について、指揮者トーマス・ダウスゴーが分かりやすく解説。 | [出演]トーマス・ダウスゴー[収録]2009年 ■字幕/約8分 |
| ティーレマンと語るベートーヴェン『運命』 | 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 30 | 音楽評論家ヨハヒム・カイザー（1928～2017）が、指揮者クリスティアン・ティーレマンと共に、ベートーヴェン『運命』の音楽的特徴とティーレマンの解釈を討論する。 | [出演]ヨアヒム・カイザー（音楽評論家） クリスティアン・ティーレマン（指揮者） ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 他 [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第5番八短調Op.67『運命』 [監督]クリストフ・エンゲル[制作]2010年 ■字幕/約1時間2分 |
| ドキュメンタリー「J・シュトラウス一族～ワルツの背景」 | 1, 2, 3, 4, 9 | “ワルツ王”ヨハン・シュトラウス2世の数々の名作の背景に隠されたシュトラウスファミリーの光と闇。失われたと思われていたヨーゼフ・シュトラウスの2つの作品の世界初演映像も必見。 | [監督]エリック・シュルツ[制作]2017年 ■字幕/約1時間8分 |
| ドキュメンタリー「ブニアティシヴィリとメータ～ジョージアでの48時間」 | 2, 10, 16 | 才色兼備の人気ピアニスト、カティア・ブニアティシヴィリの母国でのリハーサルと演奏会に密着。巨匠ズービン・メータのサポートで、シューマンの傑作に挑む。 | [出演]カティア・ブニアティシヴィリ（ピアニスト） ズービン・メータ（指揮者） イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：ピアノ協奏曲イ短調Op.54、クロード・ドビュッシー：ベルガマスク組曲～第3曲「月の光」[監督]ホルガー・プロイセ[制作]2018年 ■字幕/約54分 |
| ドキュメンタリー『アンドレ・プレヴィン～2つの世界をつなぐ橋』 | 3, 4 | プレヴィンの生い立ちから幼少時代、亡命から渡米後の生活まで、様々なエピソードが彼自身によって語られていく。アカデミー賞授賞式でのスピーチなど、貴重な映像も満載。 | [出演]アンドレ・プレヴィン、ミア・ファーロー（女優/元妻） アンネ＝ソフィー・ムター（ヴァイオリニスト/前妻） ルネ・フレミング（ソプラノ歌手） トム・ストツバード（作家） デヴィッド・フィンク（ベーシスト） 他 [監督]リアン・ビルンバウム&ペーター・シュテファン・ユング[制作]2008年 ■字幕/約53分 |

| 番組名 | 放送日 | 概要 | 曲目、出演者等 |
|---|------------------------------|---|--|
| ドキュメンタリー『バイロイト音楽祭の100年』～ワーグナー芸術の現在から未来～ | 3, 4, 5, 6, | ドイツの政治文化史に深く関わるバイロイト音楽祭の100年を、さまざまなアーカイヴ映像を交えて紹介。祝祭劇場の内部構造やそこで働く職人たちの姿も興味深い。 | [出演]ヴォルフガング・ワーグナー（バイロイト音楽祭総監督） ヴィーラント・ワーグナー（演出家） エルンスト・ブロッホ（哲学者） ヴィリー・ハース（作家） ハインツ・ティティエン（指揮者） カール・ベーム（指揮者） アンドレ・クリュイタンス（指揮者） カロス・クライバー（指揮者） ホルスト・シュタイン（指揮者） ビエール・ブーレーズ（指揮者） 他[監督]ルドルフ・デュモン・デュ・ヴォワテル[制作]1976年 ■字幕/約1時間 |
| トリフォノフ&プレトニョフ「ショパンの新しい世界」 | 14, 17, 18, 19, 20 | 鬼才トリフォノフが作品と向き合い、音にするまでの信条やこだわりに迫る、録音現場の密着ドキュメンタリー。プレトニョフ編曲による「新しいショパン」の制作秘話！ | [出演]ダニール・トリフォノフ（ピアノ） ミハイル・プレトニョフ（指揮） マーラー・チェンバー・オーケストラ（演奏） [監督]クリスティアン・ベルガー[制作]2017年 ■字幕/約54分 |
| ポートレート「振付家マーティン・シュレプファー」 | 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 16 | 次期ウィーン国立バレエ芸術監督マーティン・シュレプファーの振付作品とダンサーとしての姿、挑戦を続ける彼の創造の源とその思想、日常の生活までも紹介。 | [出演]マーティン・シュレプファー（振付家・ダンサー） ハンス・ファン・マーネン（振付家） ゲルト・ヴァイゲルト（写真家） クリストフ・マイヤー（ドイツ・ライン歌劇場総支配人） アンネ・ド・パソ（劇作家） アドリアーナ・ヘルツキー（作曲家） 他[主な演目]ハンス・ファン・マーネン振付『日常』、マーティン・シュレプファー振付『深宇宙』『森、湖』『ブラムス - 交響曲第2番』『五重奏曲「ます」』[監督]アネット・フォン・ヴァンゲンハイム[制作]2015年 ■字幕/1時間35分（番組枠） |